

板 木

群馬県へき地教育研究資料第69・70集



「現存する板木」(みなかみ町)

令和4年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第69・70集

序



へき地教育研究資料「板木」の歴史は古く、へき地教育連盟が発足した昭和27年から発刊し、今年度で第69・70集となりました。

「板木」とは、表紙にあるように、始業などの時刻を知らせるためにたたき板のことであり、へき地に学ぶ子どもたちのシンボルでありました。

本資料「板木」は、へき地教育を語る重要な資料であり、へき地教育の営みの結晶であります。改めて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝の意を表します。へき地教育の

振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、さまざまな施策を実施してまいりました。今年度も、県へき地教育研究大会の開催、へき地教育振興会やへき地教育センター運営への補助などの施策を推進しております。

群馬県では、新・群馬県総合計画（ビジョン）の重点政策として掲げた「教育イノベーション」において、全ての人に学びの機会を補償するだけでなく、一人一人に寄り添い、多様な個性に合った最適な環境を、多様な学びの方法で提供することを示しています。予測困難な20年後の未来に向け、群馬の環境を生かした教育で感性を磨きながら、デジタルで世界とつながっていくこの「教育イノベーション」こそ、へき地学校のもつ強みを生かすことができるものであると考えます。県内のへき地学校では、これまでも自然に恵まれた教育環境や地域とのつながりを生かした、特色ある教育活動が展開されております。また、小規模校ならではの特性を生かし、個に応じた指導の工夫・改善などにも努めていただいております。

今年度の県へき地教育研究大会は、草津町を会場に、「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」をテーマに行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、紙上での開催となりました。資料には、「少人数による効果的な学び合いを目指した授業づくりの工夫」や「自己肯定感の醸成」をテーマとした2つの実践や、郷土を愛する心と共に次世代を担う意欲的な児童の育成を目指す草津小学校や草津町での取組が紹介されておりました。どの実践においても、地域の特性を生かし、子どもたちが協働性を発揮しながら学級全体で学ぶ姿がありました。

このように、へき地教育に関わる皆様の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られております。これらの教育実践は、へき地校のみならず、すべての学校に多くの示唆を与えてくれるものです。今後もこれまでの実践の成果を踏まえつつ、へき地校ならではのよさを生かした教育を、なお一層推進していただきたいと思っております。県教育委員会といたしましても、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいります。

結びに、へき地教育研究資料「板木」第69・70集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関において「板木」が十分活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

令和4年3月

群馬県教育委員会

教育長 平田 郁美

「板木」第69・70集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、複式学級の解消などへき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきております。これらは、へき地教育に献身的に取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心より感謝申し上げます。

今年度のへき地指定校は32校であり、これは県内の全小中学校数の10%にも満たない数であります。へき地校に通う児童生徒の数も減少の傾向にありますが、へき地校に通う児童生徒を見ると、心身共に健やかで、地域をよく知り、地域を好きになる子が増えているように感じます。これは、豊かな自然など地域の環境を生かした体験活動や、児童生徒一人一人の個性や能力を生かしたきめ細やかな教育を推進していただいているおかげだと考えております。

新型コロナウイルス感染症対策や1人1台端末の配備など、子供たちの置かれている環境は大きく変化しています。こうした変化の激しい社会の中では、先を見通すことがますます難しくなっています。そのような時代においても、子供たちが変化を前向きに受け止め、人と人との関わりの中で鍛え上げられた感性を働かせて、現在では思いもつかない新しい未来の姿を創造していく力を育てていってほしいと願っています。

このたび、へき地教育研究連盟の皆様方が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第69・70集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つ大変意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様へ、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せての挨拶といたします。

令和4年3月

群馬県へき地教育振興会

会 長 星野 已喜雄

「板木」第69・70集の発刊にあたって

平素より関係の皆様にはへき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しましてご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため様々な研究大会が中止となりました。へき地教育に関わる全国大会が紙面開催、群馬県へき地教育研究大会が中止となり板木第69集を発刊することができませんでした。そのため今年度は、群馬県へき地教育研究資料「板木」が第69・70集として発刊の運びとなりました。

「板木」は、群馬県へき地教育の貴重な資料として長年活用されてきています。これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの皆様のご尽力に対しまして心から敬意を表します。

巻末の資料には、令和2年度のへき地学校の資料や群馬県へき地教育振興会役員名簿、群馬県へき地教育研究連盟役員名簿、群馬県へき地教育センター指導員名簿、へき地教育功労者名簿も掲載させていただきました、今年度のものとあわせてご覧ください。

さて、全国へき地教育研究連盟は、へき地学校、複式学級を有する学校、分校等の教育の充実を図り、もってへき地における教育の振興を図ることを目的とし、昭和27年の結成以来、北海道大会で開催された第1回全国大会を皮切りに、全国各地での研究協議会の開催や実践事例集の発行など70年間にわたって、研究を積み重ねてきました。

令和元年度からは、研究主題として「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成 ～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～」を掲げ、第9次長期5か年研究推進計画(9次長計)を進めてきました。今年度は宮崎県において、その3年次の大会が、「神話の里 みやざきで ふるさとの未来を創る 子どもを育てよう！」を大会スローガンとして、参集とオンラインのハイブリットで開催されました。

大会に参加してみて、へき地の大会をリモートで行う難しさを感じました。レンタカーで宮崎県の延岡市から都城市まで、分科会の学校や学校のある地域をいくつか回ってみました。海沿いの学校や山間部の学校等学校を取り巻く状況はどの学校も特徴的でした。また、7月の大雨(線状降水帯による)や台風等の被害ためか、土砂が流れ出た道路や樹木がたくさん倒れている山々の様子、その土砂が流れ込んだと思われる建物などがあり道路が片側通行になっていたり、駐車場の一部が削られていたりした箇所が数カ所見られました。分科会で各校からのオンラインによる発表で学校の様子を紹介していただきましたが、現地でその学校の特徴的な環境を感じ、その学校ならではの教育活動を見るべきで、研修としては、不十分さを感じました。今後、さらに工夫された発表になることを期待しています。

群馬県では、これまで積み重ねてきた教育実践を基に新たな課題解決に向けた研究をさらに推進していきたいと考えています。そして、この「板木」が、群馬県のへき地に住み、地域を支える若者へエールを送るものとなることを祈念しております。

結びになりますが、「板木」第69・70集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方にお礼を申し上げますとともに、日頃よりご指導とご支援をいただいております群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係の皆様には深く感謝申し上げます、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和4年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 林 徹志

も く じ

序 文

序	-----	群馬県教育委員会教育長	平田 郁美
「板木」第69・70集の刊行に寄せて	-----	群馬県へき地教育振興会長	星野 已喜雄
「板木」第69・70集の発刊にあたって	-----	群馬県へき地教育研究連盟理事長	林 徹志

第1部 へき地教育の振興

I へき地の学校経営

〈1〉小学校	安中市立細野小学校長	國峯 智	-----	1
〈2〉中学校	嬭恋村立嬭恋中学校長	石塚 博文	-----	3

II 学習指導の改善に関する実践的な研究 ----- 5

昭和村立大河原小学校長 林 徹志

III へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校	嬭恋村立西部小学校長	小池 裕生	-----	7
〈2〉中学校	高山村立高山中学校長	石関 博之	-----	9

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 令和3年度へき地学校教員研修の概要 ----- 11

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

嬭恋村立東部小学校長 宮崎 岳彦

II 第70回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要 ----- 12

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

嬭恋村立東部小学校長 宮崎 岳彦

〈2〉提案要旨

《小学校班》 神流町立万場小学校長 右井 義人 ----- 14

《中学校班》 みなかみ町立藤原中学校長 永島 芳信 ----- 16

〈3〉 公開授業			
《草津町立草津小学校》総合的な学習の時間	-----		18

Ⅲ 第70回全国へき地教育研究大会（宮崎大会）

〈1〉 概要報告	-----			22
群馬県へき地教育研究連盟理事長				
昭和村立大河原小学校長		林	徹志	
〈2〉 分散会発表者報告	-----			23
第1分散会第1発表				
長野原町立西中学校長		家本	光雄	
〈3〉 分科会報告				
A分科会	昭和村立大河原小学校長	林	徹志	----- 25
B分科会	沼田市立利根中学校長	田村	学	----- 25
C分科会	上野村立上野小学校長	梯	直人	----- 26
D分科会	東吾妻町立岩島小学校長	後藤	一浩	----- 26
E分科会	上野村立上野中学校長	関根	恵一	----- 27
F分科会	長野原町立西中学校長	家本	光雄	----- 27
G分科会	嬭恋村立東部小学校長	宮崎	岳彦	----- 28
H分科会	義務教育課指導主事	前島	隆宏	----- 28

《資料》

I	令和2年度へき地学校資料	-----		29
II	令和2年度群馬県へき地教育振興会役員・事務担当者・担当指導主事	-----		32
III	令和2年度群馬県へき地教育研究連盟役員	-----		33
IV	令和2年度群馬県へき地教育センター指導員	-----		34
V	令和2年度へき地教育功労者	-----		35
VI	令和3年度へき地学校資料	-----		37
VII	令和3年度群馬県へき地教育振興会役員・事務担当者・担当指導主事	-----		40
VIII	令和3年度群馬県へき地教育研究連盟役員	-----		41
IX	令和3年度群馬県へき地教育センター指導員	-----		42
X	令和3年度へき地教育功労者	-----		43

あとがき	-----			44
------	-------	--	--	----

第 1 部

へ き 地 教 育 の 振 興



1 年 生 スケートの授業



1 年 生 消防車の見学

I へき地の学校経営

〈1〉小学校

自ら学び、心豊かに たくましく生きる 細野っ子の育成

安中市立細野小学校長 國峯 智

1 学校の概要

本校は安中市の北西部に位置し、上毛三山を眺望する豊かな自然環境にあり、明治十二年に、この地域の四私塾が合併して細野西小学校として開設された。以後、138年の歴史を誇り、近年は過疎化が進み児童数は年々減少、今年度は児童47名、7学級となっている。

常勤の教職員は12名で、担任の平均年齢は41歳であり、ベテランの割合が多い教師集団である。

(1) 地理的特色

本校区は東を九十九、西を坂本、南を新堀、北を倉渕町に接し、土塩、新井、上増田の三地区より成り、学校はその中心の細野が原に位置している。学校の周辺は松井田北中学校、郵便局、JA細野支所、細野ふるさとセンター（細野地区生涯学習センター）、駐在所、細野保育園等があり、地域文化の拠点になっている。校区は東西に長く13.5km、南北に5.4kmにわたっている。西部は森林が広がっており、標高は1300m、東部は260mでわずかに平地を成している。南に九十九川、北に増田川が流れていて、台地上の細野が原には、増田川から引いた用水によって水田が営まれている。水田は、両川の周辺で営まれているが、耕作地としては畑地が多く、コンニャクやネギなどの栽培が多い。地域には史跡「仙ヶ滝」、天然記念物「彼岸桜」「七色もみじ」、「福寿草の自生地」や「ろうばいの郷」等があり、四方に浅間山、妙義山や榛名山を眺望する豊かな自然環境にある。

(2) 教育的特色

豊かな自然と風光明媚な景色に囲まれ、児童の学習する自然環境は非常に恵まれている。路線バスが廃止され、国準へき地であるが、昭和54年に町の中心地方面に向かう天神山トンネルが完成し、道路も舗装され交通事情が改善された。本校区は、かつて純農村地区であったが、現在では農林業を専業とする保護者はわずかで、ほとんどが兼業である。主に祖父母が農業を営み、保護者の多くは勤めに出ている。保護者の学校行事やPTA活動への関心は高く、地域の教育力にも恵まれ、地域の方々の尽力により平成9年に建設された快適な校舎で充実した教育活動が展開されている。

2 学校教育目標

(1) 基本目標 自ら学び、心豊かに たくましく生きる 細野っ子の育成

(2) めざす児童像

- ・すすんで勉強する子
- ・みんなと仲よくする子
- ・たくましい子

3 学校経営の方針

- (1) 未来を切り拓く生きる力を育む学校づくり
- (2) 教職員が協働する学校づくり
- (3) 家庭・地域から信頼される学校づくり

4 実践の概要

(1) 確かな学力を身に付けさせる学習指導の工夫はばプラⅡやICT活用Versionを活用し、問題解決的な授業づくりやICTを日常的に活用した授業改善に努めた。今年度導入した一人1台のタブレット端末や電子黒板を活用したり、体験的学習や課題解決の学習、言語活動を工夫したりすることを通して、児童一人一人に自ら学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力などの資質や能力を育てた。

また、授業中の基本的な学習態度を身に付けさせると共に、家庭学習の習慣化を図るために「学びステップアップ週間」を設定した。「学びステップアップ週間」に取り組んだ結果、自分で目標を立てて、目標を達成しようとする取り組みことで、達成感や満足感が高まり、毎日の学習時間や読書時間が定着した。



タブレット端末を活用した授業

(2) 豊かな人間性を育む学級経営・生徒指導の推進

生徒指導の3つの機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定）を生かした日常的な指導を通して、児童の自己指導能力の育成に努めるとともに、学校・学級が楽しく、安心感、充実感が得られる居場所づくりに努めた。また、新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見を防ぐための指導を担当が日常的に行うだけでなく、朝礼で校長が直接指導した。

(3) よりよく生きるための道徳教育・人権教育の実践

「考え、議論する道徳」の実践と自他を大切に作る心、感動する心を育む道徳教育の充実を努めた。人権重要課題への理解を深めるとともに、児童一人一人のよさや努力が認められる雰囲気づくりに努めた。さらに、異年齢集団（サーキット班、清掃班）の活動を通して、児童の好ましい人間関係づくりを育むとともに、高学年の児童の自己有用感を育んだ。

(4) 開かれた学校づくり、家庭・地域との連携

学校・学級だより、ホームページ、地域での会議等を活用し、積極的かつタイムリーに家庭や地域へ情報発信した。さらに、授業参観、懇談会、オープンスクールなどの教育活動の積極的な公開を通して、家庭・地域との連携と信頼関係づくりに努めた。郷土への関心を高め、郷土愛に満ちた子どもを育成するための地域の人的・物的資源を活用した。



サーキット班の活動

5 終わりに

令和3年度の「学校教育の指針」では、学校経営の軸に「ICTを活用した教育活動」と「新しい生活様式を踏まえた教育活動」を据えている。このことは、本校においても、まさに喫緊の課題である。課題解決のため、コロナ禍での教育活動の難しさを感じながらも、組織的計画的に学校経営に取り組んできた。その中で、とくに重点として取り組んだことは、タブレット端末等のICT機器を活用した授業改善である。未来を切り拓く生きる力を育てるように、校内研修で職員同士互いに切磋琢磨し、指導力の向上を図った。今後も、地域と積極的に連携したり、小規模校のよさを生かしたりしながら、自ら学び、心ゆたかにたくましく生きる細野っこの育成に努めていきたい。

〈2〉 中学校

郷土を愛し、たくましく未来を切り拓く生徒の育成

～第1学年総合的な学習「浅間山学習」を通して～

嬭恋村立嬭恋中学校長 石塚 博文

1 学校の概要

本校は、群馬県の北西部、南に浅間山、西に四阿山、北に白根山のパノラマが広がる風光明媚な標高922mの高原地域に位置している。平成24年度、嬭恋村立東中・西中学校が統合し、今年度で開校10年目を迎えた。通学区は嬭恋村全域であり、嬭恋東部小・西部小の卒業生が通学している。主な通学方法はスクールバスであり、約84%の生徒が利用している。生徒数は213名（男子119名・女子94名）、学級数は8学級（各学年2学級・特別支援学級2学級）であり、吾妻郡の中学校8校中3番目の小規模校である。

2 学校教育目標

- (1) 基本目標 心身ともに健康で、自ら学び、ふるさと嬭恋を愛する心豊かな生徒を育成する。
- (2) 目指す生徒像

つ・・・伝え合う生徒
ま・・・学び合う生徒
こ・・・心豊かな生徒
い・・・生き生きと活動できる生徒

スローガン
「笑顔」
「全力」
「声」
「感謝」



3 学校経営の方針

- (1) 全職員の参画のもと、自らの教師力を発揮し、組織力を生かした学校経営に努める。
- (2) 生徒や地域の実態を踏まえた教育課程をもとに学校経営の改善・充実に努める。
- (3) 「わかる・できる」が実感できる、生徒が生き生きと活動する授業づくりの工夫に努める。
- (4) 全教育活動を通して、生徒が互いに認め合い高め合う心の育成に努める。
- (5) 「生きる力」の基盤となる基本的な生活習慣を身に付けた活力ある生徒の育成に努める。
- (6) 嬭恋高校との連携型中高一貫教育の充実・推進に努める。
- (7) 家庭や地域社会との連携を密にし、相互の信頼関係を築き、開かれた学校づくりに努める。

4 実践の概要

- (1) 第1学年総合的な学習 「浅間山学習」

嬭恋村は、浅間山、草津白根山という日本有数の活火山に囲まれた地域であり、火山防災の啓発が重要であるという認識から、1991年第1回より「火山砂防フォーラム事業」に参加している。以来、本校では、第1学年総合的な学習の中に「浅間山学習」を位置付け、「火山を知り、火山とともに生きる」をテーマに火山砂防学習に取り組んでいる。

そして、今年度は、12月16日（木）（9月30日予定が新型コロナウイルス感染症により延期）に本校体育館で行われた「2021火山砂防フォーラム」での研究発表に向け、浅間山ジオパーク推進協議会、利根川水系砂防事務所、土砂災害防止広報センター等、浅間山に係る有識者の方々からの指導のもと、学習に取り組んだ。

① 第1回 学習会 5月28日(金)

本校の玄関ホールにおいて、5・6校時を使い、浅間山ジオパーク推進協議会、利根川水系砂防事務所の方々を講師に、「嬬恋村と浅間山」をテーマに学習会を行った。日本の自然災害では、災害と防災、災害を受けやすい日本の国土の特徴、浅間学習では、浅間山の火山活動、成り立ちについて学んだ。



【第1回 学習会】

② 浅間山登山学習 6月3日(木)

第1学年生徒68名が10班に分かれ、浅間山北麓に広がる上信越高原国立公園の第一種特別保護地域の中を通るトレッキングコースをジオパークガイド10名の案内のもと5時間かけて登山学習を行った。生徒は、浅間山の火山活動によって形成された溶岩流、巨大噴石、クレーター、溶岩樹形などの地形と、そこに育成する高山植物群落などの貴重な自然遺産を観察した。下山後は、火砕流や土石流対策のため設置された浅間山麓の砂防ダムを見学した。



【浅間山登山学習】

③ ワークショップ 6月～11月

生徒は「活火山浅間山グループ」(噴火履歴や固有の自然環境・地形等に関して発表するグループ)、「浅間山の恵みグループ」(キャベツや観光産業との関わり、噴火遺構を活かした取組等について発表するグループ)「浅間山と安全な暮らしグループ」(ハザードマップや浅間山周辺の防災上、中学生のできる事などについて発表するグループ)の3グループに分かれ、有識者の指導のもとテーマに即した学習を進めるとともに、火山砂防フォーラムでの研究発表に向けた原稿作成に取り組んだ。



【ワークショップ】

④ 火山砂防フォーラム 12月16日(木)

本校体育館において、火山砂防フォーラム委員会(委員長=熊川栄嬬恋村長)主催の「2021火山砂防フォーラム」が行われた。その中で、生徒はグループごとに分かれ、「浅間山から嬬恋村を見て考えたこと」をテーマに研究発表を行い、荒牧茂雄東京大学名誉教授、熊川栄嬬恋村長より講評をいただいた。研究発表後には、池谷浩砂防・地すべり技術センター研究顧問をコーディネーターに安井真也日本大学文理学部地球科学科教授をはじめ5人のパネリストにより「地域の防災力を高めて、明日に備える」をテーマにパネルディスカッションが行われ、防災・減災に対する理解を深めることができた。

5 終わりに

本校の総合的な学習では、目指す生徒像を「郷土を愛し、学んだことを学校・家庭・地域の生活に生かして身の回りの人々や自然とより良く生きようとする意欲や態度を持つ生徒の育成」と位置付け取り組んでいる。浅間山は、江戸時代の天明3年の大噴火により北麓地域を中心に壊滅的な被害をもたらし、現在でも活発な活動を繰り返している日本有数の活火山である。一方で、溶岩樹形という自然の造形美を作り出すとともに嬬恋村のキャベツ、温泉・スキーの観光資源等、様々な恩恵をもたらしてくれた「嬬恋村の宝」でもある。今回の学習を通して、生徒には、過去の経験・教訓から得た知識・技能を今後の防災・減災に生かすとともに、嬬恋村の宝である浅間山を愛し、ともにこれからの未来をたくましく切り拓いてほしいと願っている。

Ⅱ 学習指導の改善に関する実践的な研究

自ら考え、根拠をもとに説明できる児童の育成

～集団解決の場における、発問の充実を通して～

昭和村立大河原小学校 林 徹志

1 主題設定の理由

本校は、赤城山の北麓の中腹、利根郡昭和村の東南部に位置する小学校である。明治41年に糸之瀬尋常高等小学校長者久保分教場として設置され、昭和33年に昭和村立東小学校赤城分校となり、昭和35年には、大河原小学校と改名し61年目を迎えた。今年度の児童数は71人である。

本校の児童は、たいへん素直で純朴であるが、友達のことを聞くだけで、自分の考えと比べることを苦手とする児童が多いこともあり、平成27年度より、算数における授業改善を進める研修に取り組んできた。当初は、集団解決の場における協働の学びとしての話し合い活動の時間を確保することを目的に、導入をいかに短時間にするか等研修を進めてきた。授業のねらいを児童の言葉で作ることや見通しのもとたせ方、話し合いのもとたせ方、まとめを児童からの言葉でいかに作るか等、事前の指導案検討やプレ授業を組織的計画的に行い、課題を克服してきた。今年度は、「集団解決の場」で、学習内容を深めることをねらった計画的な発問を充実させることで、自ら考え、根拠をもとに説明できる児童の育成をめざし、本主題を設定した。

2 研究の基本的な考え方

今年度は、発表した友達の考えは正しいと思い、深く考えようとしていない（考え続けられない）等を本校児童の課題とし、算数科において、問題解決的な単元計画を構想した。単元時間の授業での「集団解決の場」においては、他者説明（他の児童の考えを説明させる）や、マッチング説明（式で表されている考え方を説明する児童と他の児童にその説明と連動する図を指し示させる）等を手立てとして、また、問い返し等の補助発問を計画的に行うことで児童が自分の考えを広げたり、より深く考えたりできるようにさせたいと考え、以下のような取組をすることとした。

- 主発問のみならず、補助発問も多用しながら、児童が考え続ける授業展開にしていく。
- 発表児童のみならず、発表を聞いている児童にも、発表中や発表後に問い返しを行う。
- 発言していなくても深く考えている児童がいるので、教材と対話している児童についても観察していく。

3 実践例 単元名 5年「小数のわり算」

(1) 単元のねらい

乗数が小数の場合の乗法の意味について理解し、その計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、乗数が小数の場合の乗法の計算の仕方を乗法の性質や数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、乗法の意味を捉え直したり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

(2) 実践の概要

過	主な学習活動	指導上の留意点
つ か む 10	1 学習課題を把握する。 ①前時の学習内容を振り返り、本時のめあてをつかむ。	・前時に使った数直線を掲示し、「80円を1とみたとき、2.3にあたる代金」を思い出させる。
	めあて 80×2.3（小数をかける計算）の答えの求め方を考えよう。	
	②問題 1m80円の布、2.3mの代金は、いくらですか。 ③解決の見通しをもつ。	1.3がどうなれば、答えが出せるかな？ どうすれば小数を使わない考え方ができる

	<p>答え $160 < \square < 240$ 方法 数直線、式、0.1mをもとに 23mの値段をもとに</p>	<p>かな？</p> <p>・2枚の数直線を掲示する。0.1mの23倍と 考え、23mの代金を出せばよいと気づかせる。</p>
自力 解決 5	<p>2 個別に課題を追究する。 A $80 \div 10 = 8$ $8 \times 23 = 184$ $80 \div 10 \times 23 = 184$ B $80 \times 23 = 1840$ $1840 \div 10 = 184$ 1つの式にすると、$80 \times 23 \div 10 = 184$</p>	<p>・数直線のワークシートを配付し、そこに 必要な数字や式をかき込ませる。 ・机間指導をしながら、集団解決での発表者 を決める。 ・まず、0.1mの代金、23mの代金を求めるこ とを教える。</p>
集団 解決 20	<p>3 集団で課題を追究する。 ① A、Bの順にそれぞれの考えを説明する。</p> <p>2.3が小数なので計算できません。そこで、Aさんは、どんな工夫をしたのですか。</p> <p>② A、Bの順に式と数直線のマッチング説 明をする。</p> <p>③ 2つの考えを比較・検討をする。</p> <p>この2つの考えの似ているところは、どこでしょうか？</p> <p>・整数の計算に直して（小数を使わずに）、 答えを出している。 ・10で割っている。</p>	<p>・Aの説明後に、他の児童に問う。 8は何を表していますか？</p> <p>8を求めた後、何をしましたか？</p> <p>・Bの説明後に、他の児童に問う。 1840は、何を表していますか？</p> <p>1840を求めた後、何をしましたか？</p> <p>なぜ、整数に直すとよいのですか？</p>
ま と め 10	<p>4 学習の振り返りをする。 ① 学習のまとめをする。 まとめ 小数をかける計算は、整数に直して答えを求める。 ② たしかめ問題をする。</p>	

4 成果と課題

○成果

- ・発問の内容や意図、タイミング、回数などを事前に検討しておくことで、児童が考え続けることができ、理解を深めることができた。

○課題

- ・発問は、授業の流れや状況で変わるものも多く、有効性や効果が明確にしにくかった。
- ・発問やその回答から、学習内容を適切に統合・発展させていけない場面があった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・教師が発問の意義について理解を深めることで、必要な場面で問うべき「問い」（発問）を発せられるように実践を積む。
- ・一つの発問で終わるのではなく、児童・教師・教材を繋ぐ連続した発問によって、学びを深める。

Ⅲ へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校

学校を楽しみにして登校する児童を育成する生徒指導

～児童会の活動を通じた人間関係作りに重点をおいて～

嬭恋村立西部小学校長 小池 裕生

1 地域・学校の概要

本校は、群馬県北西部の浅間山麓に位置し、夏から秋のキャベツ出荷量が日本一の嬭恋村にある児童数194名学級数11学級のへき地校である。2020年4月の調査では、嬭恋村の世帯数は3941世帯で、人口は9521人となっている。約3割が給料生活者、約7割が農家である。高原野菜の出荷期や観光シーズンにはトラックや観光バス等の往来が激しい。冬場はスケートやスキーなどのウィンタースポーツが盛んな地域である。

平成27年4月に嬭恋村立西小学校、嬭恋村立田代小学校、嬭恋村立干俣小学校の3校が統合して、今年7年目を迎えた。南に浅間山、西北には四阿山・白根山をのぞむ、嬭恋村の西部4地区(大前・大笹・田代・干俣)を学区としている。広大な嬭恋村の西側半分を通学区域とするために、児童の68%がスクールバスを利用し、その路線は7系統となる。通学路や学校周辺では、野生動物の目撃情報が多く、地域の関係機関と連携しながら児童の登下校の安全確保を心がけている。

2 生徒指導の方針

(1) 学校経営の方針

- ① 笑顔で生き生きと学校生活を送れる、安心・安全な学校づくり
- ② 学校教育目標の達成に向けた、全教職員の組織的な取組
- ③ 地域から信頼される、開かれた学校づくり
- ④ 全教職員が職能成長を進める学校づくり

(2) 生徒指導の方針

- ・ 生活習慣の安定と規則等が守れる児童の育成
 - ・ いじめ等の早期発見・解決と組織対応の強化
 - ・ 家庭や地域と連携した、児童の健全育成
- 「生活習慣作り」と「人間関係作り」に重点を置いた学年・学級指導を柱として、学校を楽しみにして登校する児童を育成する。また、集団遊びや異学年交流を通じて、互いに認め合い・支え合える集団づくりを目指し、自立支援につなげる。
- 担任外の教職員を含めた複数の目で児童の様子を把握し、いじめアンケートや生徒指導会議を通じて情報の共有を行い、「学校いじめ防止基本方針」に則り、年間を通したきめ細かな実態把握、早急な対応に努める。
- 保護者との連絡・連携を密に行い、教師と児童・保護者との信頼関係を構築する中で、児童の健全育成につながる指導の徹底を図る。

3 実践の概要

(1) 代表委員会

代表委員会は、3年生以上の各クラスの学級委員、企画・運営委員、各委員会の委員長が参加をして、学期に2回程度開かれる。学期ごとの生活目標を決めたり、その振り返りを行った

りしている。その他にも、学校の代表として「いじめゼロ宣言」や運動会スローガンについて話し合い、決定をしている。参加者全員が意見を発表できるようにすること、みんなの意見をなるべく取り入れていくことなどを意識しながら行っている。みんなでたくさん意見を出し合い、よりよい学校を築いていくことを目的に児童会活動を行っている。

(2) 団活動・たてわり清掃

西部小学校には、四阿団、榛名団、浅間団、白根団の4つの団があり、団活動では、それぞれの団をさらに3つの班に分け、班長を中心に活動を行っている。「だるまさんが転んだ」や「しっぽ取り」など、団活動の遊びは、みんなが楽しめるものを6年生が中心となって考えている。また、清掃は1年生から6年生までの全ての学年が揃ったたてわり班で行っている。5・6年生がそうじのやり方などを1・2年生に丁寧に教えている。西部小学校では、団活動やたてわり清掃など、他学年との交流活動をたくさん行っている。

(3) いじめ防止運動

「いじめゼロの学校」「みんなが安心して過ごせる学校」を築くため、児童会で「いじめゼロ宣言」を作成して実践している。この「いじめゼロ宣言」を基に、各学級で何ができるのかを考え、話し合い、実行している。二学期には、各学級の取り組みを発表し合い、それぞれの取組を示した宣言カードを校内に掲示し、いじめのないより良い学校を築いていけるように活動を充実させている。

(4) 募金活動

児童会で赤い羽根募金やユニセフ募金の呼びかけを行っている。朝活動の時間やお昼の放送で募金の協力と呼びかけている。ユニセフ募金の協力と呼びかける際に、みなさんから寄付された100円で、水をきれいにする薬が買えたり、病気から子どもを守るためのワクチンが買えたりできることを児童集会で紹介した。毎年、多くの児童に募金に協力してもらえるように呼びかけている。

(5) 保健集会

保健集会では、歯を守るために大切なことについて、保健給食委員が劇やクイズなどでわかりやすく伝えている。リモートでも、集会を実施できるように準備を進めている。



代表委員会



団活動



たてわり清掃



いじめ防止児童集会

4 おわりに

本校の特色として、学年を超えた仲の良さが挙げられる。これは実践の概要にあるような様々な活動や通学班での仲間作りを意識した長年の取組の成果であると考えられる。しかし、ゲームやSNSなどのメディアを利用する中で、生活習慣の乱れや人間関係に関する問題も起こりうる状況にある。今後は、保護者や地域の理解と協力を得ながら、適切なメディア利用の啓発やアウトメディアの取組を図り、児童への指導も継続させていきたい。

〈2〉 中学校

自治能力を育成する生徒指導の推進

高山村立高山中学校長 石関 博之

1 学校の概要

高山村は吾妻郡の東端に位置し、東は沼田市、西は中之条町、南は渋川市、北はみなかみ町に接している。また、子持山・小野上山など、緑豊かな山々に囲まれた高原地帯で、山麓にはぐんま天文台・北毛青少年自然の家などの県施設やロックハート城・キャンプ場・温泉付きの道の駅などが点在しており、訪れる人を和ませてくれる村である。

本校は、生徒数87名、5学級（普通3、特支2）のへき地県準の小規模校である。標高550mで村の中心に位置しており、広大な緑あふれる敷地内で生き生きと生徒たちが活動している。また、高山村教育行政方針である「明るく・かしこく・たくましく」のもと、こども園・小学校・中学校の一貫教育を進めている。今年度は、早くから整備されているICT環境を活かし、県ICT活用促進プログラム実践校の指定を受けている。また、英語教育の推進として英語検定の支援や2年生を対象に希望者全員が海外派遣事業（シドニー）に参加できるなど、教育に熱心な村である。さらに、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を新設し、地域との連携を通して地域の教育力を学校に反映している。

2 生徒指導の方針

(1) 望ましい集団と社会性の育成

- ① いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止に組織的に取り組む。生徒会主体の啓発活動や体験活動を積極的に支援するとともに学校・家庭・地域が連携していじめの未然防止と早期発見・早期解決を図る。
- ② 学校行事、生徒会活動等による感動体験を充実させ、達成感を味わわせる機会を充実する。
- ③ 将来の社会的・職業的自立を見据え、職場体験などを充実させ計画的・系統的にキャリア教育を進める。

(2) 豊かな人間性の育成と心の教育の充実

- ① 全校での花づくり活動を通して、生命を尊重する態度や思いやりの心を育てる。
- ② 道徳教育の充実を図り、道徳的実践力の育成に努める。
- ③ スクールカウンセラーによる全生徒の個人面談を行い、教育相談の充実を図る。

3 具体的な取組

(1) 生徒会主体の望ましい学校集団づくりの取組

- ① 生徒総会では、活動方針である生徒会スローガンを紹介して共通理解を図ることで活動の方向を明確にする。今年度は「刹那～一瞬を一生の思い出に～」となり「人生に一度しかない思い出・一瞬を一生の思い出にしてほしい」という思いを込めてつくられたものである。



- ② いじめ防止集会では、いじめに発展するような寸劇を作成し、その動画を全校で視聴し、いじめと思われる場面の問題点や登場人物に自分を置き換えたときの行動などをワークシートに書かせ考えさせた。また、代表者に発表させ共有を図らせた。

- ③ 生徒玄関前でのあいさつ運動（定期的）や校門前でのさわやかあいさつ運動（月1回・青少推の協力による）では、登校時に「おはようございます」と声をかけ合い積極的なコミュニケーションを図っている。



④ 生徒交流会では、学年間の交流を通して親睦を深め、活力ある学校づくりを目的として、全校でレクリエーションを行っている。生徒会本部役員の主体性を高める上でも有意義であった。



⑤ いじめ防止子ども会議では、高山小学校と「いじめ防止子ども会議」を開催し、中学生が中心となってテーマに沿って話し合いを行い、今後の取組について決議する。また、後日の生徒集会において全校生徒に報告を行い具体的な協力を求める。

(2) 生徒主体の望ましい学級集団づくりの取組

① 1年生野外学習や2年生高原学校では、体験学習の計画や役割分担などを明確にして、意図的な場の設定をしながら生徒主体の活動へと導いていく活動を行っている。



② 文化祭では、演劇を行う。劇の役割分担を明確にして一つの作品を生徒主体で作りに上げていく活動を通して、学級内でのコミュニケーション力を高め、よりよい学級集団づくりを行う。

(3) 地域に愛着をもち、豊かな心を育てる取組

① パンジーの栽培やマリーゴールド・サルビアの植え付けを吾妻中央高校3年生の協力のもと行っている。1年生がパンジー種まきから鉢上げ、花壇への植え付けを行うなど一連の栽培活動を体験する。また、こども園の花壇にも植える交流活動を行っている。花壇いっぱいには冬はパンジー、夏はマリーゴールドやサルビアを見ながら生活を送ることで豊かな心を育てる。



② 職場体験学習は、コロナ禍の影響もあり、今年度より村内事業所のみの体験活動とした。生涯学習課の協力を得て、受け入れられる24事業所のうち生徒の希望で14事業所で体験を行った。地域と共に子どもたちを育てる活動になった。

③ コミュニティ・スクールの地域人材活用として、芸術の日に絵画クラブの方に写生指導。合唱コンクールではコーラスクラブの方に審査員等をお願いするなど、コロナ禍の中であったが、地域の方との関わりをもたせた。



④ 資源回収を生徒とPTA役員とで行っている。地域の資源ゴミを回収し学校で近隣生徒と生徒会本部役員が業者回収車両への積み込みを行う事で、地域に貢献する奉仕活動となった。

(4) 心の教育の充実

① 考え議論する道徳をめざして、ICTを活用した指導方法の工夫や、自分事として考えさせる振り返りの工夫をした授業実践。



② スクールカウンセラーによる全校生徒への計画的な個人面談や授業実践。また、不登校生徒やその保護者に対して積極的な教育相談の実施。

4 おわりに

最近の問題行動として非行行為をする生徒は減少傾向であるが、これといった明らかな理由もなく不登校傾向になってしまう生徒が見られる。今の生徒たちに、「生きる力」をつけさせるため、自治能力（自主・自律・自立）を育成することが必要である。そのために生徒たちが安心して見通しをもった活動が行えるよう、教師側で学習環境を意図的に仕組む必要がある。また、活動する中で、生徒の実態に応じた適切な支援を行い、自己決定の場面をつくる。さらに、集団の中での自己有用感をもたせながら、成功体験をさせ達成感を味わわせたい。

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



草津小学校 湯もみ体験

I 令和3年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

嬭恋村立東部小学校長 **宮崎 岳彦**

1 令和3年度へき地学校

令和3年度の県内へき地学校は、前年度と同様、加盟校数32校である。昨年度より児童生徒数は81名減の2,255名、教職員数は10名減の391名となった。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の小学校で1.5%、中学校で1.6%となった。

役員の選出や研究発表等は県内を3つのブロックに分けてローテーションで行ってきたが、加盟校の減少による学校数の不均衡を改善するために、令和3年度より3ブロックの学校数の調整を行った。

2 活動方針

- (1) 研究主題 「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」
～へき地・複式・小規模の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～
- (2) 活動方針
 - ① 本連盟は、群馬県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
 - ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
 - ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯や親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。
- (3) 活動内容
 - ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深めるため、広報「県へき連」を発行している。
 - ② 毎年、へき地教育研究大会を、県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催している。
(令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策の一環として紙上開催とした)
 - ③ 県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力して、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に努めている。

3 研究・研修の概要

- (1) 第70回群馬県へき地教育研究大会 9月17日(金) Bブロック(北毛)
草津町立草津小学校を会場に実施予定だったが、感染症対策のため紙上開催
- (2) 第70回全国へき地教育研究大会宮崎大会 10月28日(木)・29日(金) 宮崎市等
感染症対策のため、来場型とオンライン型の同時開催
- (3) 第19回関東甲信越へき地教育研究大会山梨大会 11月12日(金) 山梨県
感染症対策のため、オンラインでの開催
- (4) 第47回全国へき地教育研究連盟研究推進協議会 11月25日(木)・26日(金) 東京都
- (5) 広報「県へき連」第89号発行
- (6) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第69・70集発行

Ⅱ 第70回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

嬭恋村立東部小学校長 **宮崎 岳彦**

県へき連では5月より「第70回群馬県へき地教育研究大会」の開催に向けて準備を進め、7月16日付で一次案内を行いました。しかし、群馬県の新型コロナウイルス感染症警戒度が「4」に引き上げられるなど収束の見通しが得られないため、大勢の参加者が集まることによる感染拡大のリスクを避け、8月5日付で紙上での開催に変更しました。

授業公開に向け準備していただいた草津小学校の皆様や研究協議の提案準備をしていただいた方々にお詫びするとともに、関係者の皆様の御理解・御協力に感謝いたします。

1 趣 旨

へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。

2 主 催

群馬県教育委員会 群馬県へき地教育研究連盟

3 共 催

群馬県へき地教育振興会 草津町教育委員会



紙上開催の資料

4 大会テーマ

ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成
～へき地・複式・小規模校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

5 参加者

- (1) へき地小中学校の全校長または職員（各校より1名限定：全日程参加）
- (2) へき地学校を有する市町村教育委員会関係者

6 期 日

令和3年9月17日（金）

7 会 場

草津町立草津小学校 〒377-1711 草津町草津3-1
☎ 0279-88-2156 FAX 0279-88-2125

8 日 程

- | | |
|-----------------|--------------|
| (1) 受付 | 9:00 ～ 9:50 |
| (2) 開会行事（小体育室） | 9:50 ～ 10:10 |
| 進行 群馬県へき地教育研究連盟 | 副理事長 関根 恵一 |
| ① 開会の言葉 | (進 行) |
| ② あいさつ 群馬県教育委員会 | 教育長 平田 郁美 |

群馬県へき地教育振興会
草津町教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟

会 長 星野已喜雄
教育長 吉田 秀男
理事長 林 徹志
(進 行)

- ③ 閉会の言葉
(3) 日程説明等 群馬県へき地教育研究連盟 事務局長 星野 文隆
(4) 研究協議 (小体育室) 10:10 ~ 11:10
① あいさつ (提案者等紹介) (3分) 世話係
② 提 案 (20分×2名)

小学校 (Aブロック)	神流町立万場小学校 校長 右井 義人 ○テーマ「自分の学びを広げたり、深めたりできる児童の育成」 ～少人数による効果的な学び合いを目指した授業づくりの工夫を通して～
中学校 (Cブロック)	みなかみ町立藤原中学校 校長 永島 芳信 ○テーマ「地域・学校・自分が好きな子どもの育成」 ～自己肯定感の醸成をとおして～

- ③ 質 疑 (5分)
④ 指導講評 (10分)
⑤ あいさつ (連絡等) (2分) 世話係

司 会	記 録	世 話 係	指 導 助 言
長野原町立応桑小学校 校長 関 幹彦	中之条町立六合中学校 校長 桑原 武史	嬭恋村立西部小学校 校長 小池 裕生	西部教育事務所指導主事 利根教育事務所指導主事

- (5) 公開授業 11:20 ~ 12:05

学年	教科	単元・題材名	指 導 者	会 場
4 年	総合	福祉・障害平等研修	水出 英基	体育館

9 来賓ならびに主催者

	所 属	役 職 名	氏 名	係
来賓	今回はお招きしません			
主催	群馬県教育委員会	教育長	平田 郁美	挨拶
		義務教育課長	栗本 郁夫	
		人権・キャリア教育推進係長	周藤 健司	
		義務教育課指導主事	前島 隆宏	
		義務教育課指導主事	石川 文俊	
		西部教育事務所指導主事	加瀬 健	研究協議指導助言
		吾妻教育事務所指導主事	熊川 武士	
	利根教育事務所指導主事	青木 理恵	研究協議指導助言	
	群馬県へき地教育研究連盟	理事長	林 徹志	挨拶
共催	群馬県へき地教育振興会	会長	星野已喜雄	挨拶
	草津町教育委員会	教育長	吉田 秀男	挨拶

〈2〉 提案要旨

《小学校班》

自分の学びを広げたり、深めたりできる児童の育成

～少人数による効果的な学び合いを目指した授業づくりの工夫を通して～

神流町立万場小学校長 右井 義人

1 学校の概要

本校がある神流町は群馬県の南西部に位置し、上信越自動車道藤岡インターから神流川を遡ること1時間あまり、奥多野の深い山々と清流に囲まれた小さな町である。

平成15年4月に万場町と中里村が合併して「神流町」となり、本校も平成16年4月に万場小学校と中里小学校を統合し開校した。現在は、全校児童29名の小さな学校である。地域、保護者を始め、町も学校に対して大変協力的であり、子供たちも大変礼儀正しく何事にも真面目に様々な教育活動に取り組んでいる。

2 実践の概要

(1) 主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「ふるさとに誇りをもち、故郷で志を果たそうとする児童の育成」、目指す児童像を「かしこく（明知）やさしく（親愛）たくましく（勇氣）」としている。これらを実現していくためには、自分の考えをもち、相手に伝えること、相手の思いや考えのよさを見付けて認め合うことが大切であると考え。

本校の職員は若い教員が多く、何事にも非常に熱心に取り組んでいるが、個々の指導技術には大きな差がある。少人数学級であることから、個別指導が十分行き届くため、児童主体の活動となるべき学び合い活動や諸行事などにおいて、必要以上に支援をしてしまっているという状況も見受けられる。

これらのことから、「はばたく群馬の指導プランⅡ」を活用した授業づくりの実践と授業スタンダードの確立を図っていくこととした。その中で、課題を追究する場面において、対話的な学び合いの活動を通して、自分の学びを広げたり、深めたりすることを重視したいと考え、本主題を設定することとした。

(2) ねらいと見通し

①研究のねらい

はばたく群馬の指導プランⅡを活用し、課題を追究する場面において、対話的な学び合いの活動を通して、自分の学びを広げたり、深めたりする児童を育成する。

②研究の見通し

次のような指導の工夫を取り入れた授業を繰り返し積み重ねていけば、自分の学びを広げたり深めたりできる児童を育成することができるであろう。

ア はばたく群馬の指導プランⅡを活用した授業づくりの実践と授業スタンダードの確立。

イ 課題を追究する場面において、具体的な活動をもとに思考できるようにしたり、話し合う視点を示したりしていくことで、児童が自分の学びを広げたり深めたりすることをできるようにする。

(3) 具体的な実践

○アについて

まず、校内研修において、はばたく群馬の指導プランⅡを活用した授業づくりについて共通理解を図った。そして、1人1研究授業については、指導案検討→指導案再検討→授業→授業研究会の筋道で実施を行った。研究会では、反省点を整理し、まとめを「明日への提言」という形でまとめることにより、日々の様々な教科の授業実践に生かせるようにした。

○イについて

【実践事例1】

単元名「かさくらべ」（1年 算数）

ねらい：任意単位を用いて、かさを数値化して比べることができる。

追究する場面に、様々な大きさのカップから個別にカップを選びジュースの量を比べられる具体的な活動を取り入れ「自力解決の時間→考えを全体で共有する時間」の過程を設けた。

このことにより、自力解決では「紙コップ1杯分〇〇の方が多かった」「プリンカップ2杯分の方が多かった」など、どちらが多かったかを判断することができた。そして「考えを全体で共有する時間」において、話し合う視点として「みんなのやり方で似ていたことは何か？」を与えたことで、児童からは「〇〇の方が多かったこと」「どのくらい多いか数字や言葉で表現していたこと」「一人一人違うカップを使っていたけれど、一つの（同じ）カップで比べていたこと」等が出され、まとめでは「ジュースのかさは、同じ大きさの入れ物を使って比べるとどれくらい多いか分かる」とまとめることができた。

【実践事例2】

単元名「割合の新しい表し方を調べよう」（6年 算数）

ねらい：全体の量を、示された比に分ける方法を考え、問題を解決することができる。

まず、つかむ過程において問題を確認するとともに、線分図をもとに前時の学習を想起したり、前時との違いを確認したりすることで、めあてをつかみ見通しをもたせた。

追究する場面では、前時に活用した線分図を基に思考できる「自力解決の時間→考えを全体で共有する時間」の過程を設けた。

このことにより、自力解決では「等しい比の関係を使う（ $2:5=X:150$ ）」「比の値を使う（ $150 \times 2/5 = 60$ ）」「1目盛りがいくつかを求める（比の数が5だから、線分図の1目盛りは $150 \div 5 = 30$ 、線分図2目盛り分なので 30×2 ）」等の考えを導くことができた。そして「考えを全体で共有する時間」において、話し合う視点として「三つの考えの共通点は何か？」を与えたことで、児童からは「答えが30で一緒だった」「どれも5を使っていた」「前の授業と同じやり方で解けた」等の意見が出された。それをもとにまとめでは「二つの量が分からないときには、全体の量の比を出してから、等しい比の関係や比の値を使ったり、1目盛り分を出したりすれば求めることができる」とまとめることができた。

3 まとめと今後の課題

【成果】

- 実践を通して、授業スタンダードを確立することができ、どの学年でも「めあて→中心的な学習活動→まとめ→振り返り」の学習過程を踏まえた授業を行うことができるようになった。
 - ・授業者がねらいを明確にした授業を行うよう心掛けたことで、めあてをつかむ過程で、児童は学習意欲をもつとともに、解決の見通しをもち追究の過程へ進むことができるようになった。
 - ・まとめと振り返りの時間をしっかりと確保することで、児童は「何を学んだか」「どのように学んだか」など自分の学びを自覚することができるようになってきた。
- 追究の過程に「自力解決の時間→考えを全体で共有する時間」を設けた。そして、自力解決の時間では、具体的な活動をもとに思考できるようにしていったことで、児童は自分の考えをもてるようになった。また、考えを全体で共有する時間では、話し合う視点を示したことで、話し合いを活発化することができ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようになった。

【課題】

- 数年で教職員が入れ替わっていつてしまうことから、万場小学校の授業スタンダードを新しく赴任してきた教職員へ、どのように伝承していくかが今後の課題である。
- 1人1台端末の導入を受け、学び合いの場面での効果的な活用方法を模索していく必要がある。

《中学校班》

地域・学校・自分が好きな子どもの育成

～ 自己肯定感の醸成をとおして ～

みなかみ町立藤原中学校長 永島 芳信

1 学校の概要

藤原小中学校は利根川の最初の一滴を生み出すみなかみ町北部に位置する小中併設校で、児童数4名、生徒数5名の極小規模校である。小学校は標準学級数2学級であるが、1年（1名）・5年（1名）を人事特配を活用した学年別学級編成、3・4年（各1名）を複式として全校で3学級編成としている。中学校は標準学級数1学級であるが自助努力により、2年（2名）・3年（3名）を学年別学級編成とし、2学級編成としている。

小中学校に各3名ずつ配置されている教諭は中学校の授業を実践する必要から全員が小中兼務となっており、小中学校すべての学年で教科担当制を実施している。また、中学校の音楽と技術は町内他校の教諭が兼務により指導している。さらに、小学校4年には複式学級解消非常勤講師、図工・家庭にはきめ細かな指導充実非常勤講師、中学校の美術・家庭は小規模中学校教科指導充実非常勤講師が配置されている。兼務、非常勤講師により多くの教職員が児童生徒の指導に当たっているが、在籍する教員の人数が少ないことの強み、小中学校の職員室が同一である利点を生かして連携を密にし、9年間を見通した学習指導、共通理解・共通認識を基盤とした生徒指導を推進している。

地域連携については、これまでの地域とのかかわりに加え、みなかみ町がユネスコエコパークとして登録されたことから、町の自然や藤原地区の特色を生かした活動を推進している。特に、総合的な学習では、「藤原かるた」を題材に地域の自然や暮らしに関する課題を設定し、見学や体験をとおして追究している。また、降雪量が多いことから地域の施設を利用したスキー授業も充実させている。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

藤原小中学校では、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな支援を充実させており、教師と児童生徒、児童生徒間の人間関係がたいへん良好である。そのため、児童生徒はたいへん素直で何事にも一所懸命に取り組むことができる。反面、極小規模校であることから自分の意見を大勢の前で主張したり、集団で考えを練り上げて主体的に取り組んだりする経験が少なく、苦手意識をもっている児童生徒が多い。また、来年度は町内中学校の統合により4つの中学校が1校となり、1学年100人以上の学校で新年度を迎えることとなる。

そこで、統合後を見据えるとともに将来にわたって自信をもって自己の力を堂々と発揮できる児童生徒を育成する必要があると考え本研究主題を設定した。自分自身のよさに気付き、主体的に活動できる児童生徒を育成するとともに、そうした自己を育ててくれた地域・学校を愛する心情を育むことを目指して実践を進めていく。

(2) 実践の内容

① 授業における実践

授業において自己肯定感を醸成する取組として、校内研修を中心に、考えを深めたり広げたりしながら表現できる児童生徒の育成に取り組んでいる。藤原小中学校ではこれまでも表現力の育成に着目し、根拠を明確にして自分の考えを発表することに取り組んできた。今年度はこれらをさらに一歩深め、自分と違う意見と比べて、他の人はどうしてそう考えたのか、どちらの考えがよいのか、組み合わせたらどうかなど、課題に対してより深く追究させ、考えを深め

たり広げたりしながら表現できる児童生徒の育成を目指している。さらに、振り返りにおいて考えを深められたことを自覚させ、達成感や満足感を味わわせることをとおして自己肯定感へと結びつけていく。小規模校である藤原小中学校においては他の意見と比較して考えを深めさせる機会が少なかったことから、多面的に考えさせるうえでもたいへん効果的な取り組みであると考える。具体的な実践は以下のとおりである。

実践例1 小学校5年生算数「わり算の世界を広げよう」(小数点のあるわり算)

小数点のあるわり算の計算方法を考えさせる実践において、異なる意見を示し、どちらがよいかを問うことで、考えを深めさせた。「リボンを2.5m買ったらい金は300円でした。このリボン1mの値段は何円ですか」の計算方法を考えさせる際に、「0.1m分を求めてから10倍して求める」と考えた児童に対して、「300と2.5を両方10倍して計算する」方法を示し、どちらが計算しやすいかを考え、説明させた。「300と2.5を両方10倍して計算する」方法は、「簡潔性」「能率性」等の考え方から効果的であることに気づかせるとともに、振り返りでより深く考えられたことを自覚させた。

実践例2 中学校2年生数学「連立方程式」

連立方程式を具体的な問題場面で活用する過程で、一元一次方程式と比較させ、連立方程式のよさを考えさせる実践であった。「マランソン大会に参加して30kmのコースを4時間ちょうどどのタイムでゴールしました。途中何度か歩いてしまいました。走っていたときの速さを時速9km、歩いていたときの速さを時速3kmとします。合計何km歩いたのでしょうか」を解決する際、前時までに学習した連立二元一次方程式を活用して解くとともに、既習の一元一次方程式でも解かせ、連立方程式の立式の「有用性」「簡潔性」に気付かせた。生徒は連立方程式を活用できることに加え、そのよさについても考えることができ、積極的に学習を進めることができた。

② 集会・行事等における実践

これまでも集会や行事の運営を児童生徒が行えるように支援しており、中学生の進行により小学生をリードし、活躍する場面が多く見られる。しかし、極小規模校であること、熱心な若手教員が多いことから、必要以上に支援をしてしまっている状況が見受けられ、主体的な取り組みにならない場面も見られた。このことから体育集会等において、各回ごとに担当する生徒を決め、取り組む内容を考えさせたり、当日の進行や小学生への支援を行ったりしている。これらの活動をとおして、自分が学校や下学年の児童生徒の役に立っていることことを実感させ、自己有用感に裏付けられた自己肯定感の醸成に努めている。生徒の感想からも、「みんなが喜んでくれてよかった」と自己有用感を感じている様子が見える。

3 まとめと今後の課題

自己肯定感の醸成を経営の重点としてまだ半年である。授業や日常生活において児童生徒の考えや取組を認めたり、児童生徒の声を運営に生かしたりすることを積極的に進めている。こうした取組により、児童生徒からは「考えを受け入れてくれてありがたかった」「がんばってよかった」といった声が多く聞かれ、達成感をもっている様子が見える。

授業や集会等における実践では、具体的な手立てを共通理解し、実践を始めた段階である。今後は共通理解した手立てを教職員全体で共通実践し、組織的・計画的に実践を積み重ね、児童生徒の自己肯定感の醸成を図っていききたい。

〈3〉 公開授業指導案

授業の公開ができなかったため、予定していた単元の実践を掲載しました。

総合的な学習の時間学習指導案

単元名「福祉について調べよう」

令和元年11月8日（金）第3校時 4年松組教室

草津町立草津小学校 4年松組 指導者 水出 英基

I 単元構想

1 目標

福祉に関する様々な体験を通して他者の気持ちを理解し、共に生きようとする心情を育むとともに、自分にできることを実践していこうとする態度を育てる。

2 身に付けさせたい資質・能力及び児童生徒の実態 (男子19名、女子12名、計31名)

	身に付けさせたい資質・能力	児童生徒の実態
知識・技能	疑似体験や交流などを通して障害がある人や高齢者の生活や思いについて理解する。	高齢者の方との同居や身近に高齢者がいる家庭は多いが、障害がある人との交流は少なく、生活や思いについての理解は進んでいない。
思考力・判断力・表現力等	障害がある人や高齢者の思いをもとに、これからの生活で実践していくべきことに気づき、実行しようとする。	学級活動などの学習では、これからの生活で実践していくべきことに気づき、実行しようとする児童も多い。
学びに向かう力、人間性等	疑似体験や交流などの活動に積極的に取り組む。	体験活動などには積極的に取り組むが、活動の終末まで意欲が続かない児童も多い。

3 単元計画 (全20時間計画)

過程	時間	主な学習内容		評価の観点			
				関	思	技	知
つかむ	1	福祉についての学習課題を立てる。	福祉についての講話を聞く。				○
	2		障害平等研修（D E T）体験を通して福祉について考える。	○	○		
	3						
	4		学習課題を設定する。		○		
みんなにとってやさしい町にするためにはどうすればよいかを考えよう。							
追究する	5	耳が不自由な人について調べる。	耳が不自由な人からお話を聞き、手話について学習する。	○			○
	6						
	7		手話を使ってお話をする。	○	○		
	8		目が不自由な人について調べる。	○			○
	9						
	10		点字を使って目が不自由な人とお話をする。〈本時〉	○	○		
まとめる	11	目や体が不自由な人の体験をする。	ブラインドウォークと車いすの体験と介助体験をする。	○			
	12						
	13		高齢者福祉について調べる。	○			○
	14		高齢者の方にインタビューをする。装具を使って高齢者の疑似体験をする。				
まとめ	15	学んだことを新聞にまとめる。	これまでの福祉体験を振り返り、福祉に対する自分の考えを新聞形式でまとめる。	○	○		
	18						
	19		学んだことをこれからの生活に生かす。		○		
20		これからの自分の生き方に結びつけて振り返り、これから実践していくことについての考えをまとめる。					
みんなにとってやさしい町にするために自分にできることを考え、実行していこうとする児童							

II 指導事例 (10/20)

1 ねらい

点字を使ってお話をする活動を通して目の不自由な人の生活で大切なことを知り、みんなにとってやさしい町にするためにはどうすればよいかを考える。

2 展開

	主な学習活動 ☆児童の意識	指導上の留意点及び 支援・評価	時間
1	めあてを明確に捉え、学習の見通しをもつ。 ☆今日は、点字を使ってお話をするんだな。	・目の不自由な方3名と社会福祉協議会	5

<p>☆先日習ったことを思い出そう。 ☆上手く話すことができるかな。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(めあて) 点字を使ってお話をする活動を通して目の不自由な人にとってやさしい町にするためには、どうすればよいかを考えよう。</p>	<p>の方2名を紹介する。</p>	
<p>2 目が不自由な方の生活や思いについてのお話を聞く。 ☆目が不自由な人は大変なんだなあ。 ☆目が不自由でもお話をすれば伝えられるぞ。 ☆点字が上手にできるかなあ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集中してお話が聞けるように個別指導をする。 	10
<p>3 点字を打って、目の不自由な人と点字を使ってお話を する。 ☆私の名前が分かるかなあ。 ☆名前が打てたので、つぎはどんなお話をしようかなあ。 ☆きちんとできるか心配だなあ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに自分の名前を点字で打ち、読んでいただく。 ・時間的な制約もあるので隣の席の児童と一緒に二人一組で活動に取り組みさせる。 ・戸惑っている児童には個別指導をする。 	20
<p>4 目の不自由な人にとってやさしい町にするためには、 どうすればよいかを考え、ワークシートに記入する。 ☆点字を誰もが使えるようになればいいなあ。 ☆音が出るなど耳で聞いて分かるものが増えればいいなあ。 ☆困っている人がいたらやさしく教えてあげよう。 ☆静かにしないと困る人がいるんだなあ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目の不自由な方が普段使っている音で伝える物を見せて頂き、目が不自由な人の生活についての理解を更に深めさせる。 ・考えが書けない児童には、机間指導をしながら助言する。 	10
<p>【評価項目】 目の不自由な人にとってやさしい町にするために、自分が取り組んでいくべきことについて考えている。(発言・プリントの記述)</p>		
<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(振り返りの姿) ☆目が不自由な人にとって点字が使えたり、音で分かるものが多くなったりすればやさしい町になることがわかった。</p>		
<p>6 次時の予告をする。</p>		

Ⅲ 学びの実際

(1) 「つかむ」過程における学び(第1時～第4時)

第1時では、町の社会福祉協議会事務局の職員の方に来ていただいて、福祉についてのお話をしていただいた。草津町として取り組んでいる福祉活動の内容やこれから自分たちが体験することについてつかむことができた(図1)。

第2時と第3時では、障害平等研修(DET)を体験した。車椅子を使って生活する人たちに来ていただいて、障害とは何かについてグループでの話し合いを通して考えることができた。はじめは、障害=障害者と考えていた児童が多く見られたが、車椅子を使って生活している人にとっては道路に落ちている石こそが障害であることなどを知り、普段の生活を妨げるものが障害であり、誰にとっても障害のない暮らしやすい環境について考えることができた(図2)。

第4時では、第1時から第3時の福祉講話や障害平等研修を通して考えたことをもとに、「みんなにとってやさしい町にするためにはどうすればよいか」についての学習課題を考えた。

福祉とは、(ふ)ふだんの (く)くらしの (し)しあわせ ということだそうです。私はこの授業で、人によっていろいろな幸せがあるということや一人一人がいろいろな人と関わりあったり、支えあったりしてくらしているということについて調べてみたいです。(4年松組 女子)

しょうがいとは、人だけのことだと思っている人が多くいますが、本当はちがいます。人だけではありません。階段や高いものやエレベーターなども、車いすの人にとってはしょうがいです。ぼくは、そのことについて調べてみたいです。(4年松組 男子)



図1 福祉についてのお話を聞く



図2 障害平等研修での話し合い

(2) 「追究する」過程における学び(第5時～第14時)

第5時から第7時では、「耳が不自由な人にとってやさしい町にするためにはどうすればよいか。」をテーマに学習に取り組んだ。まず、第5時と第6時では、草津町の手話ボランティアサークルの方々に来ていただいて手話についての学習をした。手話で話すにあたっては、手や指の動きだけではなく、顔の表情や口の動き、そして実際に話すときには、声を出しながら大きなジェスチャーで話すことの大切さなどを学んだ。

第7時では、耳の不自由な方に来ていただいて、手話を使ってお話をしたり、実際の生活で使っている振動で起こす目覚まし時計や押すと光るインターホンなどを見せていただいたりした(図3)。

耳の不自由な人は、目覚まし時計の音が聞こえなかったり、赤ちゃんの泣く声が聞こえなかったり、色々なことがとても大変です。そういう時には、助けてあげたいです。(4年松組 男子)

手話は手だけで伝えるのではなく、表情などもとても重要です。手話をたくさん覚えて使ってみたいです。(4年松組 男子)

第8時から第10時では、「目が不自由な人にとってやさしい町にするためにはどうすればよいか。」をテーマに学習に取り組んだ。まず、第8時と第9時では、草津町の点字ボランティアサークルの方々に来ていただいて点字についての学習をした。点字を書くにあたっては、右から左へ書くことや1マス空けながら分ち書きをすること、「～は」や「～へ」などは発音通りに「～わ」や「～え」などと書くことなど、読む人にとって読みやすい文字となるよう配慮することの大切さなどを学んだ。

第10時では、目の不自由な方に来ていただいて、普段の生活や思いについてのお話をうかがったあと、点字を使って自己紹介を行った。子どもたちは、自分の名前と自分の好きな食べ物やスポーツ、好きなことなどを点字で書いた。一人一人の点字の自己紹介を目の不自由な人に読んでいただいた(図4)。

点字はあまり使ったことがないけれど、目の不自由な人にとっては、かけがえない文字なんだなあと思いました。これから、点字をもっと勉強して、使えるようになりたいです。(4年松組 女子)

目の不自由な人は、ぼくが思っていた以上に大変な生活をしていることがわかりました。でも、生活をサポートしてくれる人がいれば、安心して生活ができることもわかりました。(4年松組 男子)

第11時と第12時では、目や体が不自由な人の疑似体験を行った。二つのグループに分かれて、目の不自由な疑似体験としてブラインドウォークとその介助者を、体の不自由な疑似体験として車いす乗車とその介助者をそれぞれ体験した。子どもたちは、それぞれの疑似体験を通して、目の不自由な生活の不安さや車いす生活を送るうえでの障害について強く感じ取ることができた(図5・図6)。

ブラインドウォークを体験しました。目を隠すと周りが見えなくなってとても不安になりました。サポートするときもうまくできるかととても不安な気持ちになりました。(4年松組 女子)

車いすの人は、階段の所や急坂の所がのぼりづらかったり、あがれなかったりするので、そういう人のために工夫して、みんなが普通にくらせるようにできたらいいと思います。(4年松組 女子)

車いすの体けんをしました。乗せてもらっているときには、急に上がる時がとてもこわかったので、おしてあげるときには、声かけをすることがとても大切だと思いました。(4年松組 男子)

第13時と第14時では、町の保健センターを会場にして、高齢者との交流会や高齢者疑似体験装具を使っての高齢者疑似体験を行った。家族に高齢者のいる家庭もあり、さらには将来誰もがなるであろう高齢者の疑似体験ということで、より身近な気持ちでこれからの自らの行動につなげて考えることができた(図7・図8)。

高れい者体験をしてみても、高れい者の人は体がとても重くて、歩くことが大変なことがわかりました。高れい者の人がいたら、荷物を持ってあげたり手助けをしたりしたいです。(4年松組 男子)

高れい者ぎじ体験で体験してみたら、体が重くて、目が見えにくく、文字を書いたり読んだりすることがとても大変でした。困っているお年寄りの人がいたら助けてあげたいです。(4年松組 女子)



図3 手話を使ってお話をする



図4 点字を読んでいただく



図5 ブラインドウォークと介助者



図6 車いす乗車と介助者の体験



図7 高齢者体験(体が重い)



図8 高齢者体験(文字を読むのも大変)

(3) 「まとめる」過程における学び(第15時~第20時)
 第15時から第18時では、5名程度のグループで、今回の福祉学習で学んだことや福祉に対する自分の考えを壁新聞形式でまとめた(図9)。

第19時と第20時では、これからの自分の生き方に結びつけて振り返り、実践していくことについてまとめた考えを発表した(図10)。

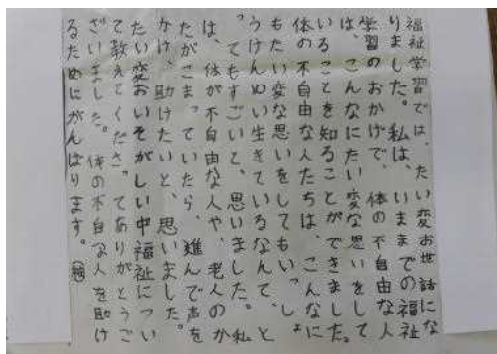


図10 一人一人の考えを発表

体の不自由な人は、大変な思いをしながらも一生懸命に生活していて、すごいと思いました。困っている人がいたら、進んで声をかけて助けたいと思いました。(4年松組 女子)

福祉体験をしてみて分かったことは、体の不自由な人は大変なことと、高齢者の人は一人では生活していくことが大変で、一人一人の手助けが必要なんだということが分かりました。(4年松組 男子)



図9 壁新聞形式のまとめ

IV 成果と課題

(1) 成果

- ・体験活動のはじめには抵抗感のある児童も多く見られたが、耳や目の不自由な方や高齢者の方のお話を聞き、そのあと交流するなかで、児童の様子に変容が見られた。
- ・児童の手話や点字に取り組む様子を見ていると、手話や点字をするおもしろさから自分の手話や点字が耳や目の不自由な人に言葉として伝わる喜びに変わり、さらには「もっと伝えたい」という積極的な姿勢に変わっていった。
- ・手話や点字を通して積極的に会話をするなかで、障害者としてではなく、一対一の人間としてのやりとりになっていた。
- ・振り返りでは、机間巡視をしながら児童のワークシートを確認し、意図的に指名して発表させることを通して、子どもたちの言葉でまとめをすることができた。
- ・社会福祉協議会との打ち合せを密にすることで、しっかりとした連携を図ることができた。

(2) 課題

- ・社会福祉協議会と連携してしっかりと計画された体験活動が中心となるため、子どもたちが自ら課題を見つけて主体的に取り組むという点では課題が残る。福祉についての学習課題を立てる過程をさらに充実させ、子どもたちが自ら課題を考え実行する活動にしていきたい。
- ・新聞等にまとめるだけでなく、自分たちでできる活動を考えて、それを外部機関に提案するようなまとめ方もよいと考えられる。
- ・社会福祉協議会が依頼してくれた外部講師の方との学習内容の事前の確認が不十分なこともあったので、外部講師やボランティアの方々を含めて事前の打ち合わせをさらに密にしていきたい。

群馬県へき地教育研究大会の公開授業に際し、本校で長年取り組んでいる4年生の総合的な学習の時間における「福祉学習」を紹介させていただく予定でした。

この福祉学習は、草津小学校と草津町社会福祉協議会との協働により授業計画を立て、福祉協議会の方には町の福祉事業の説明や体験活動・交流活動の準備、ボランティアや障害者さんの手配等、ご支援ご協力をいただき、子どもたちにとって実り多い学習が実践されています。

また、4年前から『DET群馬』の皆さんをお招きし、ワークショップ形式の障害平等研修「障害って何だろう」を通して、主体的・対話的で深い学びにつながる学習を取り入れています。車いすの講師の方の姿や問いかけから、最初は「障害=障害者」と思っていた児童が、「障害とは、人々の心の中にあるかべだ」と変容する姿を毎回見させていただき、この機会に紹介させていただこうと考えておりました。

残念ながら感染症拡大のため公開授業はできませんが、一昨年の実践報告を載せさせていただきました。

本校では生活科・総合的な学習の時間並びに全教科における郷土に関する学習を「草津よいこ学習」と称して体系化し取り組んでいます。故郷「草津」のひと・こと・ものよさに気付きながら、郷土を愛する心と共に次世代を担う意欲的な児童が育ってくれればと願っています。

Ⅲ 第70回全国へき地教育研究大会（宮崎大会）

〈1〉概要報告

昭和村立大河原小学校 林 徹志

結成70周年記念全国へき地教育研究大会宮崎大会が、文部科学省、全国へき地教育研究連盟、宮崎県教育委員会等の主催により、令和3年10月28日(木)～29日(金)の2日間にわたり宮崎市を会場に、ハイブリット型（来場型とオンライン型の同時開催）で開催された。さらに本大会は、第67回九州地区へき地・小規模校教育研究大会宮崎大会、令和3年度宮崎県へき地・小規模校教育研究大会としての位置付けでもあった。群馬県からは、来場型で秋季総会・全大会・分散会・分科会に校長1名（県理事長）、オンライン型で分散会の発表・分科会に校長1名、分科会に校長5名、県指導主事1名が参加した。

◇今大会前日(10月27日)「全国へき地教育研究連盟秋季総会」

令和3年度秋季総会が、10月27日(水)15:00より宮崎市民文化ホールにて開催された。来場型での参加人数は、24名だった。「国歌」及びへき地教師の歌「太陽となろう」が、CDで流された。柿崎秀顕全国へき地教育研究連盟会長より、へき地の先生方の研修の機会を確保するには、「紙面だけの共同研究や情報共有に限界がある」ということで、新たな研究大会のスタイルを模索していたこと、今後は、参集型（来場型）＋見逃し配信＋収録版オンデマンドをセットとして、全国大会や各ブロックの発表をスタンダードにしていく方針が示された。

◇大会第1日(10月28日)「全体会・分散会」

全体会は、宮崎市民文化ホール大ホールにて開催された。

開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」のCDが流れ、主催者として、文部科学省審議官、宮崎県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長が挨拶し、来賓・役員の紹介と続いた。

記念講演は、「夢を夢で終わらせない」と題して、オリンピックメダリスト松田丈志選手専属元水泳競技日本代表コーチ久世由美子さんの講演があった。

「夢」は、掲げるだけのものでなく「夢」で終わらせない努力が必要であり、選手とコーチの立場が変わっても努力することに変わりがない。松田丈志選手には、一人で夢を叶えることはできない、他人を助けてあげる・他人から助けってもらえる関係を作るために、挨拶・礼儀等の基本を身に付けることが一番大切だといつも指導していたとの話があった。

基調報告では、まず温泉 敏全国へき地教育研究連盟研究部長から、第9次長期5か年研究推進計画(令和元年～5年)の概要説明があり、今年度が3年次であり、宮崎大会の意義について説明があった。続いて鎌田浩二宮崎大会研究部長から宮崎県の取組に関する報告がなされた。

講演終了後、次年度開催地の山形県大会については、来場型を中心に行うことが報告された。

午後は、市民ホールで全国第9次長期5か年研究推進計画研究課題別に課題1から課題6までの6つの分散会に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、九州ブロック1校)の発表（オンラインによる発表もあった）をもとにオンラインや会場で活発な研究協議が行われた。

◇大会第2日(10月29日)「授業公開・分科会」

2日目は、宮崎県内8小中学校(A延岡市立方財小学校、B美郷町立美郷南学園、C五ヶ瀬町立三ヶ所小学校、D西米良村立村所小学校、E西米良村立西米良中学校、F小林市立須木中学校、G都城市立縄瀬小学校、H日南市立榎原小学校)で研究の概要と授業が、各校から全国の参加者に向けてオンライン（宮崎県内の参加者は各校に来場して）で公開された。

〈2〉 分散会発表者報告

第1分散会 第1発表

自他の大切さやよさを認め、共に学び高め合える生徒の育成

～ 「やればできる」体験を通して ～

長野原町立西中学校長 家本 光雄

I 研究計画

1 主題設定の理由

本校は、長野原町の南半分を占める北軽井沢・応桑地域を学区としている。北軽井沢・応桑地区は、浅間山北麓ジオパークに指定された標高900～1300mの浅間高原地帯にある。

本校の生徒の多くは自力で自転車登校をしており、自分の役割やさまざまな活動に一生懸命に取り組もうとする純朴で素直な生徒が多い。幼い頃から一緒に育ってきた仲間に対して互いに理解を示し、優しくできる部分もあるが、小規模校ゆえの課題として、固定化された人間関係の中でしかコミュニケーションを上手にとることができない点や、自己認識不足による衝突や自己肯定感の欠如などが見られる。学習面では与えられた課題に対してまじめに取り組もうとする姿勢はみられるが、受動的な学習に陥りがちで、互いに対話し合いながら学びを深めようとするところには課題が見られる。全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果からも、本校生徒は自己肯定感が低い傾向があることが浮き彫りとなった。

そこで、このような課題をもつ生徒に対して、教育活動全般の中で、「やればできる」機会を多くし、その成果を可視化することにより自他の大切さやよさを認め、共に学び高め合える生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 町の教育指針「土台の教育」に基づいて、地域と連携した学校教育の取組を取り入れ、意図的・計画的に実践していけば、生徒の基礎学力の向上につながるであろう。
- (2) 検定合格という明確な目標をもたせ、隙間時間（パワーアップタイム）の活用や普段の授業の充実を図っていけば、生徒の基礎学力の向上につながるであろう。

3 研究内容

- (1) 町の教育指針「土台の教育」に基づく地域と連携した教育活動の工夫と改善
- (2) パワーアップタイムと「授業ルール」の活用による基礎学力向上の取組

II 研究の実践

1 町の教育指針「土台の教育」に基づく地域と連携した教育活動

(1) 「7（セブン）ルール」の取組

長野原町では、教育委員会が中心となって「土台の教育」という取組を行っている。学校、家庭、地域社会が児童生徒の土台となる部分に、役割を担ってそれぞれに取り組むことが重要だと考えたものである。学校では「土台の学習」として、学校教育の基礎を「読み、書き、計算」と位置づけ、それぞれの学年での学習の基礎を全ての児童生徒が習得できるように取り組んでいる。家庭・地域では、「土台の生活」として、子供達の人格形成の基礎として重要となる事項を7項目にしぼり、「長野原町の7ルール」として定着を図っている。できる人から、できる家庭から、できる地域から、できる職場から、できる項目から少しずつ広げて行きたいと考えて継続的に取り組んでいる。

(2) 学校スローガン「一生懸命はカッコいい」の取組

本校生徒の実態として、地道な努力や真面目に取り組むことに



長野原町教育委員会「7ルール」

対して軽んじる傾向が見られる。場合によっては、努力をせずに結果を出した者をことさらに賞賛するような場面が見られる。この傾向は、現在在籍している生徒だけでなく、その親の世代から西中学校区の地域に根付いている見方や考え方であるようである。

そこで、西中学校の教育（全体像）の核として、学校スローガン「一生懸命はカッコいい！」を設定した。これは、本校の具体目標である「な（知）、が（徳）、に（体）、し（キャリア）」を有機的につなげる生徒に求める基本姿勢と考える。「何度でも基礎基本を繰り返し」や「頑張り通す強い意志」、「日常的な活動に真摯に取り組み」、「仕事に進んで取り組み」は、どれも「一生懸命」な生徒の姿である。このような生徒の姿勢を教師全員、学校全体として「カッコいい！」と賞賛していくことで、生徒が自信をもってそれぞれの活動に取り組んでいくことができると考えた。



検定合格者の表彰の様子

2 パワーアップタイムと「授業ルール」の活用による基礎学力向上の取組

(1) パワーアップタイムの取組

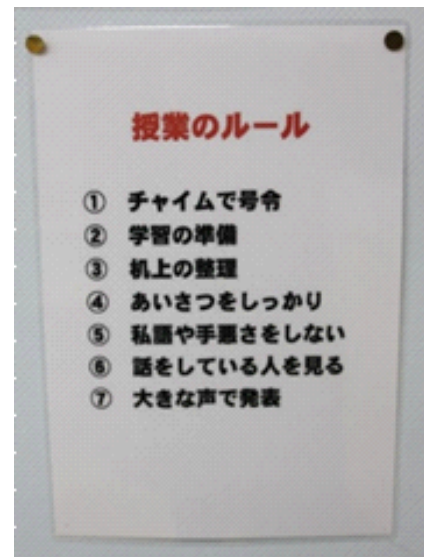
これまで校時表の中に、朝の短学活の前に朝読書とパワーアップタイムを位置づけていた。このうちパワーアップタイムを昼休み後に時間を変更することにした。取り組む内容についても、これまでは国語（漢字の読み書き）、数学（計算）について、教科担当者がプリントなどを用意し行っていた。これを漢字、英語、数学の各検定問題集を使って各自が取り組むように変えた。生徒は自分で選んだ検定の合格を目指して、パワーアップタイムの時間に学習に取り組むこととした。学校では各検定の受検を推奨すると共に、表彰集会などで検定証の授与を行い、全生徒の前で披露しその努力をたたえるようにした。



パワーアップタイムの様子

(2) 「授業ルール」の活用

自他の大切さやよさを認め、共に学び合える人間関係や環境をつくるために、授業の基本的なルールを作成し、全学級に掲示した。どの学年、どの授業でも共通して意識することを整理することで、校内で同一歩調をとりながら、学習規律の共通化を図ることができた。授業の学習規律が向上することで、生徒が安心して自分の意見を発表したり、級友の発表を熱心に聴いたりする場面が増えてきた。



教室掲示「授業のルール」

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

この取組みは、地域と学校とで役割分担をして子ども達の成長の基礎を培っていく、町教育委員会の方針を基に、学校の教育活動の再編を行ったものである。中学校の教育課程は、今後より一層、幼・こ・小・中・高の連携が必要になってくる。そのとき、地域の教育を束ねる教育委員会の方針を軸に考えていくことの大切さを実感することができた。

2 課題

今後、生徒一人一人の「学びに向かう力」をどのようにしたら高めることができるのか、継続的な実践を通して明らかにしていきたいと考える。特に、授業改善に数年間かけて取り組んできたものの、生徒の主体的な学びの姿が見えず、教師主導の授業に陥ってしまうこともある。教材研究の段階で、どのポイントを生徒自身の言葉や体験から引き出すか吟味する余地がある。

〈3〉 分科会報告

A分科会

分かる・できる喜びを実感し、自信をもって学ぶ児童の育成

～考え、判断し、表現するアウトプットを重視した学習を通して～

昭和村立大河原小学校長 林 徹志

1 会場校 宮崎県延岡市立方財小学校（学級数5 児童数35名 職員数10名）

2 地域・学校の概要

創立130年を数える学校で、児童数は、現在では35名である。小規模校のよさを生かしながら、一人ひとりの子供たちのよさや特性に応じたきめ細かな支援を行っている。

小規模であるが故に互いをよく知っており、家庭・地域・学校が一体となって方財っ子を育てていこうとする雰囲気がある。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

○アウトプットを重視した算数科学習指導の工夫改善

・児童に「問い」をもたせる導入の工夫 ・児童のアウトプットを引き出す指導技術の向上

○日常生活におけるアウトプットへの取組

(2) 公開授業 3年：算数科 本時「何倍になるかを考えて」 単元「何倍でしょう」

4 所感

授業の進行に合わせて、電子黒板や紙で提示した教材、児童の手元とカメラを切り替えながらのオンラインによる公開であった。一人一台端末とロイロノートで共有した考えを発表させ、それを基に発問を繰り返すことで児童の考えが深められるとともに多様なアウトプットを引き出せていた。活発な意見交流をする児童の姿に感心した。

B分科会

地域の教育的課題を踏まえ、 地域と連携して豊かな心を育む教育活動の創造

～キャリア教育を柱にした一貫性のある実践を通して～

沼田市立利根中学校長 田村 学

1 会場校 美郷町立美郷南学園（学級数 小7・中3 生徒数 小59名・中33名 職員数28名）

2 地域・学校の概要

美郷町は人口約5千人の小さな町で歴史的・文化的な名所が町内に多く存在する。最近では、北郷区の「炭窯」がメディアでも取り上げられ、注目を集めている。南郷区は特に韓国との交流が古くから盛んな地域で、「西の正倉院」「師走祭り」といった韓国との縁のある施設や祭りが多くある。また、山で栗や梅、柚子、椎茸などの多くの栽培をしており、それらを使った特産物も数多くある。そういった地域素材を学習に活用した「美郷科」を中心とした総合的な学習の時間を充実させることで、子供たちに地域のよさを知り、自分の将来に繋げていく活動を行っている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

①美郷科を中心とした体験活動の充実

②キャリア・パスポートを通じた学習の積み重ね

(2) 公開授業 オンライン

地域の産業の未来について考えよう ～原木マイタケ栽培を通して～

4 所感

美郷町の教育資源を「人・もの・こと」から学べるように、特色ある教育課程が編成されていた。授業では、生徒が地域課題を理解して、自分事として捉えて発信している姿があり、ふるさとを大切にしたい気持ちが伝わる内容だった。

C分科会

共に学び合い、高め合う人間性豊かな子どもの育成

～人・学び・将来とのつながりを大切にしたG授業を通して～

上野村立上野小学校長 梯 直人

1 会場校 五ヶ瀬町立三ヶ所小学校（学級数6 児童数61名 職員数17名）

2 地域・学校の概要

五ヶ瀬町は、九州山地の中央に位置する人口約3600人の自然豊かな町である。3世代、4世代構成の家族が多く、多くの伝統文化を継承している地域でもある。町には小学校4校、中学校1校があり、ほとんどの授業を1学年1学級で行える環境が整備されており、少人数授業が成立している。三ヶ所小学校は、町の中心部にあり、140年の歴史と伝統を有している。学校教育全般において、保護者や地域からの協力体制が構築されており、きめ細かな指導が展開されている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

①「五ヶ瀬教育グランドビジョン」のもと、体験活動を中心にした町内4小学校が学年ごとに小学校間の垣根を越えて行う授業（G授業）の推進。

②読解力向上を目指した「RS」（リーディングスキル）を高める授業の創造。

(2) 公開授業（オンライン配信授業）

6年 総合的な学習の時間 「五ヶ瀬のよさを伝え合おう」（町内4校6年生合同のG授業）

4 所感

保育所から中学3年生までの体験活動を見通せる「五ヶ瀬教育グランドビジョン」の策定やG授業の実施など、市内の子どもたちの共通体験や一緒に学習を進めた体験は、中学校での学習や人間関係作りにおいても良いものとしてはたらいていくと思う。

D分科会

社会とともによりよく関わり、 未来の創り手となる児童生徒の育成

～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを通して～

東吾妻町立岩島小学校長 後藤 一浩

1 会場校 西米良村立村所小学校（単式6、特支1 児童数74名 職員数14名）

2 地域・学校の概要

宮崎県中央西部に位置した事前豊かな山村にあり、平成24年からICT環境を整備を進め、小中学校合同研究階を設置し9年間を見通した小中連携の取組を推進している。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

整ったICT環境を生かし積極的に授業の中で活用することで、「新しい時代に必要となる資質・能力」を身に付けるための手立ての工夫を行っている。

(2) 公開授業

5年社会科【オンライン配信授業】 及び 2年 生活科 6年 学級活動

4 所感

小中ともに子供たちのICT活用のスキルの高さに驚かされた。また、子供たちは他の児童の考えや感じたことを聴くと「あ～」「ふ～ん」と共感的な反応をしていた。こういった自然にでてくる「つぶやき」のような声は聴き合いを活性化し、子供たちの学びが深まる。子供たちが安心して学んでいることがうかがわれた。

E 分科会

社会とともによりよく関わり、 未来の創り手となる児童生徒の育成

～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを通して～

上野村立上野中学校長 関根 恵一

1 会場校 西米良村立西米良中学校（学級数3 児童数27名 職員数12名）

2 地域・学校の概要

西米良村は、宮崎県の中央西部に位置し、人口1097人の自然豊かな村である。学校・地域・家庭が一体となり取り組む教育を目指し、「地域学習」「神楽学習」等、地域人材の活用や村外から講師を招き、村と自分に対する自信と誇りを育んでいる。平成24年度からICT環境が整備されており、4か年続けて「教育の情報化」研究公開を実施している。

3 研究の概要

(1) 研究内容

ICT環境のよさを生かしながら、積極的に授業の中でICTを活用し、「新しい時代に必要となる資質・能力」を身に付けさせるため、以下①から③の手立てを工夫する。

①見通しをもって粘り強く学習に向かい、興味関心を高めるための学習課題の工夫

②自分と他者の意見を比較し、考えを深めるような対話的な学習活動の工夫

③学びの成果と自己の変容に気付かせ、新たな発見につながるようなまとめ・振り返りの工夫

(2) 公開授業（オンライン配信授業）

2年 音楽 「平調子の特徴を生かして音楽をつくろう」

4 所感

ICTを活用し、既習事項を基に一人一人がイメージした「西米良の春」を四小節の旋律を創作した。「音の長さ」「音の上がり下がり」「繰り返し」など、条件・指示が明確でイメージした音と実際の表現との差を生徒が埋めることができた。また、ICTのよさである、「技能の差が創作活動を妨げないこと」、「創作した旋律を繰り返し聴けること」を通して、生徒一人一人の思考や表現の工夫が見られた。

F 分科会

目的意識をもち、確かな学力を身に付けた生徒の育成

～ICTを有効活用し、表現力やコミュニケーション力を育成する活動を通して～

長野原町立西中学校長 家本 光雄

1 会場校 宮崎県小林市立須木中学校（学級数3 生徒数19名 職員数8名）

2 地域・学校の概要

小林市の特色ある学び「こすもす科」で、探究活動を通して地域活性化を考える取組をしている。また、1人1台端末の活用等により、外部との交流授業などにも積極的に取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究内容

①キャリア教育の視点を踏まえた授業づくりと指導方法の工夫・改善

②表現力やコミュニケーション力を高めるための言語活動の工夫

③ICTの効果的な活用

(2) 公開授業 3学年総合的な学習の時間「SDGs、自分を変えるプロジェクト」

これまでの授業で生徒が班ごとに調べてきた事を代表班が発表し、内容について質疑応答・意見交換をしながら深めていた。その後、ゲストティーチャーからアドバイスをもらっていた。

4 所感

10名の生徒からなる学級でしたが、一人一人が自信をもって端末を活用しながら発表を行い、質疑応答が行われていることに感心しました。単にSDGsについて調査まとめをするだけでなく、その現実が「なぜ」生じているのかを考え、その問題の解決のために自分のできることを生徒なりに実践し、実践を通して更に「気付き」を生み出している生徒の追求の姿勢に大変感心しました。

G分科会

基本的な学力を身に付け、 将来の夢の実現に向けて努力する児童の育成

～相互の学びを生かした学習指導を通して～

孺恋村立東部小学校長 宮崎 岳彦

1 会場校 都城市立縄瀬小学校（学級数 5 児童数43名 職員数11名）

2 地域・学校の概要

明治6年に開校し、令和3年度で創立149年目を迎える学校である。学校周辺は、豊かな自然に恵まれた農村部で、田畑が広がり、特に畜産業が盛んである。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

市で取り組む小・中一貫教育の共通実践とともに、学校独自の授業研究（学び合い活動、複式指導の充実等）及び日常指導（習熟のための時間、家庭との連携等）を行っている。

(2) 公開授業

3・4年（複式）算数科【オンライン配信授業】 及び 5・6年（複式）算数科

4 所感

3・4年生の複式学級では、タイムボードをもとに子供自身が学習の見通しをもち、時間も管理しながら、課題を解決しようとしていた。教師は2学年をバランス良く見守ったり声掛けをしたりしていた。子供同士の学び合いがオンラインでも見て取れる、内容の濃い1時間であった。

H分科会

学びを生かし、じっくりと考え主体的に表現する力の育成

～国語科・算数科における複式指導の研究・実践を通して～

群馬県教育委員会義務教育課 前島 隆宏

1 会場校 日南市立榎原小学校（学級数 4 児童数34名 職員数 8名）

2 地域・学校の概要

日南市は宮崎県の南部に位置し、温暖で過ごしやすく、自然豊かなところであり、プロ野球やプロサッカーのキャンプ地としても知られている。榎原小学校は明治6年に開校し、本年度で149年目を迎える伝統のある学校である。児童数は34名で、複式3学級、特別支援1学級の小規模学校である。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- 論理的な思考を促す手立てや主体的な学び合いを手立てとした授業スタイルを基にした実践
- 児童の実態把握や授業改善に向けたチェックポイントによる児童理解と授業改善

(2) 公開授業

3・4年（複式）算数科 及び 5・6年（複式）国語科【オンライン配信授業】

4 所感

5・6年生の複式学級では、児童が主になり、本時の学習の流れを説明するところから始まり、1人1台端末を活用してサイドラインを引いたり、互いの考えを発表し合ったり、主体的に学習している様子が見られた。ガイド学習が児童の主体性を引き出しているように感じた。教師は、子供たちの話し合いを上手くコーディネートし、学びが深まるよう適切に支援していた。

資 料

I 令和2年度へき地学校資料

〈1〉級別へき地学校数

令和2.5.1現在

校種別 \ 級別	級別								A 計 分校	B 県全体 分校	A —— B
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	5	3	3	6	1	0	0	180	3052	5.9%	
中学校	4	2	2	4	2	0	0	140	1611	8.7%	
計	9	5	5	10	3	0	0	320	4663	6.9%	

〈2〉級別へき地本校分校別学校数

〈()内は、内数で休校中の学校である。〉

令和2.5.1現在

校種別 \ 級別	級別								小計	合計
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級			
小学校	本校	5	3	3	6	1	0	0	18	18
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
中学校	本校	4	2	2	4	2	0	0	14	14
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)

〈3〉級別へき地学校児童数

令和2.5.1現在

校種別 \ 級別	級別								計 (A)	県全体 (B)	A —— B
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	532	548	192	220	44	0	0	1,536	95,135	1.6%	
中学校	223	121	302	122	32	0	0	800	49,836	1.6%	
計	755	669	494	342	76	0	0	2,336	144,971	1.6%	

〈4〉郡市別へき地学校数一覧

（ ）内は、内数で休校中の学校である。）

令和2. 5. 1現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計	
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県 準		
					4	3	2	1	準	特			
1	高 崎	2小 1中		2 1						2		1	2 1
2	安 中	1 1		1 1								1 1	1 1
3	多 野	2 2		2 2			1 2	1					2 2
4	甘 楽	1		1							1		1
5	吾 妻	9 5		9 5				3 2	1 1	2 1	3 1		9 5
6	沼 田	1 2		1 2				1 1				1 1	1 2
7	利 根	3 2		3 2				1 1		1 1	1		3 2
総	小 計	18 14	0(0) 0(0)	18(0) 14(0)			1 2	6 4	3 2	3 2	5 4		18(0) 14(0)
	計	32	0(0)	32(0)	0	0	3	10	5	5	9		32(0)

〈5〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

令和2. 5. 1現在

郡市	学 年								学級数計	学校数
	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年			
高崎市	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
多野郡	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2
吾妻郡	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2
沼田市	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
利根郡	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
計	2	1	4	0	0	0	0	0	7	7

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移（小・中学校別）

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級	計(A)		県全体(B)		(A)/(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
昭50	6,992	3,741	898	506	1,039	294	1,678	433	108	56	29	0		10,744	5,030	160,642	73,952	6.7	6.8
昭51	6,872	3,617	828	460	1,032	177	1,496	413	101	48	23	0		10,352	4,715	164,571	74,866	6.3	6.3
昭52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0		10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7
昭53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
昭54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
昭55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
昭56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
昭57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
昭58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
昭59	6,161	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
昭60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
昭61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
昭62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
昭63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0		2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0		2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0		2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0		1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0
平28	647	282	651	174	213	364	276	151	53	52	0	0		1,840	1,023	102,642	54,577	1.8	1.9
平29	592	284	612	167	199	337	266	128	43	57	0	0		1,712	973	100,903	53,102	1.7	1.8
平30	580	253	613	156	218	312	249	115	46	48	0	0		1,706	884	99,461	51,510	1.7	1.7
令元	545	259	579	137	209	303	227	121	48	38	0	0		1,608	858	97,214	50,463	1.7	1.7
令2	532	223	548	121	192	302	220	122	44	32	0	0		1,536	800	95,135	49,836	1.6	1.6

II 令和2年度群馬県へき地教育振興会役員

会 長 星野巳喜雄（沼田）

副会長 田村 利男（多野：神流町長）

地田 功一（吾妻：吾妻郡町村教育委員会
連絡協議会会長）

梅澤 志洋（利根：片品村長）

理事 飯野 眞幸（高崎：高崎市教育長）

竹内 徹（安中：安中市教育長）

山田 孝行（多野：神流町教育長）

小池 英明（甘楽：南牧村教育長）

地田 功一（吾妻：吾妻郡町村教育委員会
連絡協議会会長）

星野巳喜雄（沼田）

梅澤 志洋（利根：片品村長）

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
高 崎 市		飯 野 眞 幸（教育長）
安 中 市		竹 内 徹（教育長）
多 野 郡	上 野 村	黒 澤 右 京（教育長）
	神 流 町	山 田 孝 行（教育長）
甘 楽 郡	南 牧 村	小 池 英 明（教育長）
吾 妻 郡	中之条町	宮 崎 一（教育長）
	長野原町	市 村 隆 宏（教育長）
	嬭 恋 村	地 田 功 一（教育長）
	草 津 町	吉 田 秀 男（教育長）
	高 山 村	山 口 廣（教育長）
	東吾妻町	小 林 靖 能（教育長）
沼 田 市		横 坂 隆 司（教育長）
利 根 郡	片 品 村	萩 原 明 富（教育長）
	昭 和 村	堤 義 樹（教育長）
	みなかみ町	田 村 義 和（教育長）

監 事 市 村 隆 宏（吾妻：長野原町教育長） 萩原 明富（利根：片品村教育長）

令和2年度へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事 事務局 書記・会計 前原 稔彦 ・長谷部秀樹

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
高 崎 市	高崎市教育委員会	長 井 の り 子	岡 部 隼 人 （西部教育事務所）
安 中 市	安中市教育委員会	森 本 千 春	
上 野 村	上野村教育委員会	小 池 啓 満	
神 流 町	神流町教育委員会	菊 池 栞	
南 牧 村	南牧村教育委員会	石 井 充	
中之条町	中之条町教育委員会	本 多 守	村 田 政 人 （吾妻教育事務所）
長野原町	長野原町教育委員会	菅 谷 麻 子	
嬭 恋 村	嬭恋村教育委員会	目 黒 康 子	
草 津 町	草津町教育委員会	佐 久 間 大 貴	
高 山 村	高山村教育委員会	平 形 英 俊	
東吾妻町	東吾妻町教育委員会	富 澤 郁 未	
沼 田 市	沼田市教育委員会	富 澤 誠 司	大 島 康 輔 （利根教育事務所）
片 品 村	片品村教育委員会	荒 木 亜 美	
昭 和 村	昭和村教育委員会	鈴 木 嘉 代 子	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	長 谷 川 基	

Ⅲ 令和2年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 中澤 昌宏 (吾妻：高山村立高山中学校)
- ・副理事長 久保 俊明 (甘楽：南牧村立南牧中学校)
- 家本 光雄 (吾妻：長野原町立西中学校)
- 林 徹志 (利根：昭和村立大河原小学校)
- ・常任理事 永田 伊知郎 (多野：上野村立上野小学校)
- 桑原 敏江 (利根：片品村立片品小学校)
- ・事務局長 篠原 正洋 (吾妻：中之条町立六合中学校)
- ・会計部長 丸山 三美 (吾妻：草津町立草津小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地 (電話番号)	県へき役職
A 高崎・ 安中・ 多野・ 甘楽	久保 俊明	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大日向1045 (0274-87-2501)	常任理事 副理事長
	永田伊知郎	上野村立上野小学校	多野郡上野村新羽32 (0274-59-2004)	常任理事 研究部長
	田中 宏巳	高崎市立倉渕中学校	高崎市倉渕町岩氷215-1 (027-378-3214)	
	岩崎 聡	安中市立松井田北中学校	安中市松井田町上増田 3602-1 (027-393-1520)	
	竹村 俊夫	神流町立万場小学校	多野郡神流町万場84-2 (0274-57-2320)	
B 吾妻	中澤 昌宏	高山村立高山中学校	吾妻郡高山村中山 3750-1 (0279-63-2002)	常任理事 理事長
	家本 光雄	長野原町立西中学校	吾妻郡長野原町応桑 1543-310 (0279-85-2249)	常任理事 副理事長 調査部長
	篠原 正洋	中之条町立六合中学校	吾妻郡中之条町生須 543-1 (0279-95-3572)	常任理事 事務局長
	山本 徳幸	嬭恋村立西部小学校	吾妻郡嬭恋村大前805-1 (0279-96-0013)	
	丸山 三美	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町草津3-1 (0279-88-2156)	常任理事 会計部長

ブロック 郡市	氏 名	勤 務 校	勤務校所在地（電話番号）	備 考
C 利 根 ・ 沼 田	林 徹志	昭和村立大河原小学校	利根郡昭和村糸井 5 4 5 5 - 3 5 4 (0 2 7 8 - 2 4 - 7 1 6 6)	常任理事 副理事長 総務部長
	桑原 敏江	片品村立片品小学校	利根郡片品村鎌田 3 9 5 2 (0 2 7 8 - 5 8 - 3 1 2 6)	常任理事
	瀧聞 京子	沼田市立多那小中学校	沼田市利根町多那 7 3 2 (0 2 7 8 - 5 8 - 2 6 9 8)	
	星野 文隆	片品村立片品中学校	利根郡片品村鎌田 4 4 8 0 (0 2 7 8 - 5 8 - 2 0 1 9)	
	諸田 義行	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝 3 3 4 (0 2 7 8 - 5 6 - 2 0 4 4)	
「板木」 実務 担当	山本 徳幸	嬭恋村立西部小学校	吾妻郡嬭恋村大前 8 0 5 - 1 (0 2 7 9 - 9 6 - 0 0 1 3)	

IV 令和2年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾 妻	小野塚 則幸	長野原町立第一小学校内	〒377-1309 吾妻郡長野原町大字林1394-5 (0279-82-2145)
利 根	小野 和好	昭和村教育委員会内	〒379-1203 利根郡昭和村糸井405番地 1 (0278-24-5120)

V 令和2年度へき地教育功労者

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
1	こいけ まさかず 小池 政一 高崎市教育委員会推薦	令和2年3月に高崎市立倉渕小学校校長として退職するまで、高崎市内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	やまもと まさゆき 山本 将之 安中市教育委員会推薦	令和2年3月に安中市立細野小学校主幹事務長代理として退職するまで、安中市・碓氷郡内のへき地学校に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	うえはら まこと 上原 誠 安中市教育委員会推薦	令和2年3月に安中市立松井田小学校教諭として退職するまで、安中市・碓氷郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	やまぐち あきお 山口 暁夫 中之条町教育委員会推薦	令和元年3月に中之条町立中之条中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	やまもと まさゆき 山本 政行 中之条町教育委員会推薦	令和2年3月に中之条町立六合小中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	はにた えいいち 埴田 栄一 長野原町教育委員会推薦	令和2年3月に長野原町立西中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に28年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	みやざき みよこ 宮崎 美代子 長野原町教育委員会推薦	令和2年3月に長野原町立応桑小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に34年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	しのはら あきひと 篠原 彰仁 嬭恋村教育委員会推薦	令和2年3月に嬭恋村立東部小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に32年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	とよた たけし 豊田 武司 嬭恋村教育委員会推薦	令和2年3月に嬭恋村立東部小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内及び高崎市内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

10	つのだ えいじ 角田 栄寿 草津町教育委員会推薦	令和2年3月に草津町立草津中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	みやざき いちこ 宮崎 一子 草津町教育委員会推薦	令和2年3月に草津町立草津小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に33年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	みやした あきこ 宮下 秋子 草津町教育委員会推薦	令和2年3月に草津町立草津小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に37年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
13	ほんだ しょうじ 本多 昭司 草津町教育委員会推薦	令和2年3月に草津町立草津中学校補佐事務長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に40年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
14	やまぐち ゆうこ 山口 祐子 高山村教育委員会推薦	令和2年3月に高山村立高山小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
15	まつもと さとし 松本 聡 東吾妻町教育委員会推薦	令和2年3月に東吾妻町立岩島小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
16	おざわ よりこ 尾澤 順子 東吾妻町教育委員会推薦	令和2年3月に東吾妻町立坂上小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
17	うえだ じゅんいち 上田 淳一 東吾妻町教育委員会推薦	令和2年3月に東吾妻町立東小学校教頭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
18	みうら たけお 三浦 武夫 沼田市教育委員会推薦	令和2年3月に沼田市立白沢小学校教諭として退職するまで、利根管内のへき地学校に26年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

VI 令和3年度へき地学校資料

〈1〉級別へき地学校数

令和3.5.1現在

校種別 \ 級別	級別								A 計 分校	B 県全体 分校	A —— B
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	5	3	3	6	1	0	0	180	3022	6.0%	
中学校	4	2	2	4	2	0	0	140	1591	8.8%	
計	9	5	5	10	3	0	0	320	4613	6.9%	

〈2〉級別へき地本校分校別学校数

〈()内は、内数で休校中の学校である。〉

令和3.5.1現在

校種別 \ 級別	級別								小計	合計
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級			
小学校	本校	5	3	3	6	1	0	0	18	18
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
中学校	本校	4	2	2	4	2	0	0	14	14
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)

〈3〉級別へき地学校児童数

令和3.5.1現在

校種別 \ 級別	級別								計 (A)	県全体 (B)	A —— B
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	511	532	167	199	47	0	0	1,456	92,471	1.6%	
中学校	233	129	293	106	38	0	0	799	49,125	1.6%	
計	744	661	460	305	85	0	0	2,255	141,596	1.6%	

〈4〉郡市別へき地学校数一覧

（ ）内は、内数で休校中の学校である。）

令和3. 5. 1現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計	
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県 準		
					4	3	2	1	準	特			
1	高 崎	2小 1中		2 1						2		1	2 1
2	安 中	1 1		1 1								1 1	1 1
3	多 野	2 2		2 2			1 2	1					2 2
4	甘 楽	1		1							1		1
5	吾 妻	9 5		9 5				3 2	1 1	2 1	3 1		9 5
6	沼 田	1 2		1 2				1 1				1 1	1 2
7	利 根	3 2		3 2				1 1		1 1	1		3 2
総	小 計	18 14	0(0) 0(0)	18(0) 14(0)			1 2	6 4	3 2	3 2	5 4		18(0) 14(0)
	計	32	0(0)	32(0)	0	0	3	10	5	5	9		32(0)

〈5〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

令和3. 5. 1現在

郡市	学年								学級数計	学校数
	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年			
高崎市	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
多野郡	1	1	0	0	1	0	0	0	3	2
吾妻郡	2	1	0	0	0	0	0	0	3	2
沼田市	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
利根郡	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1
計	4	3	2	0	1	0	0	0	10	7

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移（小・中学校別）

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級		計(A)		県全体(B)		(A)/(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
昭50	6,992	3,741	898	506	1,039	294	1,678	433	108	56	29	0		10,744	5,030	160,642	73,952	6.7	6.8	
昭51	6,872	3,617	828	460	1,032	177	1,496	413	101	48	23	0		10,352	4,715	164,571	74,866	6.3	6.3	
昭52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0		10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7	
昭53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6	
昭54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5	
昭55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0	
昭56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5	
昭57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4	
昭58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2	
昭59	6,161	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0	
昭60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9	
昭61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7	
昭62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6	
昭63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5	
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5	
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2	
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3	
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4	
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0	
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5	
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5	
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4	
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4	
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3	
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4	
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4	
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4	
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1	
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3	
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7	
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7	
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6	
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7	
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5	
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4	
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6	
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6	
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0		2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5	
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0		2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4	
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0		2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2	
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0		1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0	
平28	647	282	651	174	213	364	276	151	53	52	0	0		1,840	1,023	102,642	54,577	1.8	1.9	
平29	592	284	612	167	199	337	266	128	43	57	0	0		1,712	973	100,903	53,102	1.7	1.8	
平30	580	253	613	156	218	312	249	115	46	48	0	0		1,706	884	99,461	51,510	1.7	1.7	
令元	545	259	579	137	209	303	227	121	48	38	0	0		1,608	858	97,214	50,463	1.7	1.7	
令2	532	223	548	121	192	302	220	122	44	32	0	0		1,536	800	95,135	49,836	1.6	1.6	
令3	511	233	532	129	167	293	199	106	47	38	0	0		1,456	799	92,471	49,125	1.6	1.6	

Ⅶ 令和3年度群馬県へき地教育振興会役員

会 長 星野巳喜雄（沼田）

副会長 田村 利男（多野：神流町長） 吉田 秀男（吾妻：吾妻郡町村教育委員会
連絡協議会会長）
梅澤 志洋（利根：片品村長）

理 事 飯野 眞幸（高崎：高崎市教育長） 竹内 徹（安中：安中市教育長）
山田 孝行（多野：神流町教育長） 小池 英明（甘楽：南牧村教育長）

吉田 秀男（吾妻：吾妻郡町村教育委員会 星野巳喜雄（沼田）
連絡協議会会長）

梅澤 志洋（利根：片品村長）

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
高 崎 市		飯 野 眞 幸（教育長）
安 中 市		竹 内 徹（教育長）
多 野 郡	上 野 村	飯 出 哲 夫（教育長）
	神 流 町	山 田 孝 行（教育長）
甘 楽 郡	南 牧 村	小 池 英 明（教育長）
吾 妻 郡	中之条町	宮 崎 一（教育長）
	長野原町	小 林 敦 子（教育長）
	嬭 恋 村	地 田 功 一（教育長）
	草 津 町	吉 田 秀 男（教育長）
	高 山 村	山 口 廣（教育長）
	東吾妻町	山 野 邦 明（教育長）
沼 田 市		横 坂 隆 司（教育長）
利 根 郡	片 品 村	萩 原 明 富（教育長）
	昭 和 村	堤 義 樹（教育長）
	みなかみ町	田 村 義 和（教育長）

監 事 小林 敦子（吾妻：長野原町教育長） 萩原 明富（利根：片品村教育長）

令和3年度へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事
事務局 書記・会計 石川 文俊 ・ 前島 隆宏

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
高 崎 市	高崎市教育委員会	中 原 靖 友	加 瀬 健 （西部教育事務所）
安 中 市	安中市教育委員会	河 原 田 博 英	
上 野 村	上野村教育委員会	小 池 啓 満	
神 流 町	神流町教育委員会	菊 池 栞	
南 牧 村	南牧村教育委員会	茂 木 晶 子	
中之条町	中之条町教育委員会	本 多 守	熊 川 武 士 （吾妻教育事務所）
長 野 原 町	長野原町教育委員会	菅 谷 麻 子	
嬭 恋 村	嬭恋村教育委員会	野 寺 秀 樹	
草 津 町	草津町教育委員会	佐 久 間 大 貴	
高 山 村	高山村教育委員会	大 淵 俊 幸	
東吾妻町	東吾妻町教育委員会	富 澤 郁 未	
沼 田 市	沼田市教育委員会	金 子 平	青 木 理 恵 （利根教育事務所）
片 品 村	片品村教育委員会	荒 木 亜 美	
昭 和 村	昭和村教育委員会	綿 貫 寿 美 子	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	長 谷 川 基	

Ⅷ 令和3年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 林 徹 志（利根：昭和村立大河原小学校）
- ・副理事長 関 根 恵 一（多野：上野村立上野中学校）
- 木 暮 陽 子（吾妻：中之条町立六合小学校）
- ・常任理事 岩 崎 聡（安中：安中市立松井田北中学校）
- 宮 崎 岳 彦（吾妻：嬭恋村立東部小学校）
- ・事務局長 星 野 文 隆（利根：片品村立片品中学校）
- ・会計部長 後 藤 一 浩（東吾妻：東吾妻町立岩島小学校）
- ・理 事

ブロック 郡市	氏 名	勤 務 校	勤務校所在地（電話番号）	県へき役職
A 高崎 ・ 安中 ・ 多野 ・ 甘楽	関根 恵一	上野村立上野中学校	多野郡上野村大字檜原113 (0274-59-2040)	常任理事 副理事長
	岩崎 聡	安中市立松井田北中学校	安中市松井田町上増田 3602-1 (027-393-1520)	常任理事 図書新聞部長
	各務 明彦	高崎市立宮沢小学校	高崎市宮沢町1100-1 (027-374-2317)	
	飯島 好行	高崎市立倉渕小学校	高崎市倉渕町権田314-1 (027-378-3218)	
B 吾 妻	木暮 陽子	中之条町立六合小学校	吾妻郡中之条町小雨 599-1 (0279-95-3571)	常任理事 副理事長
	宮崎 岳彦	嬭恋村立東部小学校	吾妻郡嬭恋村三原679-3 (0279-97-3026)	常任理事 研究部長
	山野 悟	草津町立草津中学校	吾妻郡草津町草津 464-27 (0279-88-2227)	
	家本 光雄	長野原町立西中学校	吾妻郡長野原町応桑 1543-310 (0279-85-2249)	

アロック 郡市	氏 名	勤 務 校	勤務校所在地（電話番号）	備 考
C 利 根 ・ 沼 田 ・ 吾 妻	林 徹志	昭和村立大河原小学校	利根郡昭和村糸井 5 4 5 5 - 3 5 4 (0 2 7 8 - 2 4 - 7 1 6 6)	常任理事 理事長
	星野 文隆	片品村立片品中学校	利根郡片品村大字鎌田 4 4 8 0 (0 2 7 8 - 5 8 - 2 0 1 9)	常任理事 事務局長
	後藤 一浩	東吾妻町立岩島小学校	東吾妻町大字岩下4 6 (0 2 7 9 - 6 7 - 2 0 3 9)	常任理事 会計部長
	田村 学	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝3 3 4 (0 2 7 8 - 5 6 - 2 0 4 4)	
「板木」 実務 担当	家本 光雄	長野原町立西中学校	吾妻郡長野原町応桑 1 5 4 3 - 3 1 0 (0 2 7 9 - 8 5 - 2 2 4 9)	

Ⅸ 令和3年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾 妻	山本 徳幸	長野原町立中央小学校内	〒377-1308 吾妻郡長野原町大字大津4 (0279-82-2026)
利 根	小野 和好	昭和村教育委員会内	〒379-1203 利根郡昭和村糸井405番地1 (0278-24-5120)

X 令和3年度へき地教育功労者

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
1	しばさき ひろみつ 柴崎 弘光 長野原町教育委員会推薦	令和3年3月に長野原町応桑小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に24年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	しもや くにひこ 下谷 邦彦 長野原町教育委員会推薦	令和3年3月に長野原町中央小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	やまもと とくゆき 山本 徳幸 嬭恋村教育委員会推薦	令和3年3月に嬭恋村立西部小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に30年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	しもや しげこ 下谷 茂子 嬭恋村教育委員会推薦	令和3年3月に嬭恋村立東部小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に40年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	たけい ひろみ 武井 浩美 高山村教育委員会推薦	令和3年3月に高山村立高山小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に24年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	はしづめ ひさし 橋爪 久 東吾妻町教育委員会推薦	令和3年3月に東吾妻町立坂上小学校教頭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	とみざわ ゆうじ 富澤 祐司 東吾妻町教育委員会推薦	令和3年3月に東吾妻町立岩島小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	あべ ふみこ 阿部 文子 東吾妻町教育委員会推薦	令和3年3月に東吾妻町立岩島小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	たかはし れいこ 高橋 礼子 東吾妻町教育委員会推薦	令和3年3月に東吾妻町立東小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第69・70集の発刊にあたり、ご指導下さいました群馬県教育委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきました。しかし、昨年度、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大のために、群馬県へき地教育研究大会をはじめとした研究大会が中止となってしまいました。このため令和2年度「板木」の発行を残念ながら断念することとなりました。今年度、へき地教育推進の新たなスタートとして「板木」第69・70集を発行することになりました。資料編については、令和2・3年度の2年分を掲載しております。

今年度は、第70回群馬県へき地教育研究大会が草津町立草津小学校で開催される予定でした。開催方法も一新し、全体会と班別研究協議、公開授業という半日の構成で、大会のスリム化を計画していました。しかし、本年度も新型コロナウイルス感染症対策の観点から、大会が中止となってしまいました。また、第70回全国へき地教育研究大会（宮崎大会）もハイブリッド方式による開催となりました。この様なことから、「板木」第69・70集も内容が限られたものとなってしまいました。各校創意工夫をして、教育実践をまとめていただきました。自校の実践に参考にしていただければ幸いです。

へき地教育に携わる多くの方々から、原稿執筆や編集等のご協力をいただき、無事にへき地教育の記録を残すことができました。心からお礼申し上げます。完成した「板木」第69・70集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの方々に活用されることを願っております。

なお、「板木」作成に携わった編集委員は、以下の通りです。

群馬県教育委員会事務局

栗本 郁夫（義務教育課長）

周藤 健司（義務教育課 人権・キャリア教育推進係長）

前島 隆宏（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事）

石川 文俊（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事・板木担当）

群馬県へき地教育研究連盟

林 徹志（県へき連 常任理事・理事長）

関根 恵一（県へき連 常任理事・副理事長）

木暮 陽子（県へき連 常任理事・副理事長）

星野 文隆（県へき連 常任理事・事務局長・調査部長）

後藤 一浩（県へき連 常任理事・会計部長・図書新聞部）

岩崎 聡（県へき連 常任理事・図書新聞部長）

宮崎 岳彦（県へき連 常任理事・研究部長）

田村 学（県へき連 理 事 ・ 研 究 部）

各務 明彦（県へき連 理 事 ・ 研 究 部 ・ 広 報 担 当）

飯島 好行（県へき連 理 事 ・ 調 査 部 ・ 監 査）

山野 悟（県へき連 理 事 ・ 図 書 新 聞 部 ・ 監 査）

家本 光雄（県へき連 理 事 ・ 調 査 部 ・ 板 木 担 当）